

Ⅱ 各教科編集の概要

1 国 語

1 編集の具体的方針

- (1) 小学部第1学年第1巻の冒頭に、点字学習のための導入教材を挿入する。必要な内容を精選しているので、盲児童の実態に応じて適切な補助教材を準備することが大切である。
- (2) 教材の修正については、盲児童の生活経験に即応しないもの、または理解の程度や興味・関心の上から修正を加えた方がより理解しやすく、教材への親近感が高まると考えられる場合に行う。
- (3) 国語の正しい理解を促すために、普通の文字の仮名文字や漢字に関する教材については、その基本的な知識となるものを選定して掲載する。
 - ① 「漢字のひろば」は、該当する漢字部分に第1カギ（㇀ ㇁）を付けて示し、さらに課題に取り組む際に必要な、イラスト部分についての説明を言葉や句で追加した。しかし課題の内容上、イラストで示された事柄について詳細な説明を加えられないため、説明は必要最低限のものにとどめてある。従って指導に当たっては、課題の意図をふまえ十分な工夫と配慮が必要である。
 - ② 「覚えておきたい漢字」は、小学校学年別漢字配当の中から次の基準に沿って82字を選定し、2年生までの教材で扱われなかったものを1年2巻から2年2巻までの巻末に掲載した。
 - ・日常生活の中で字形をもとに語られる漢字
 - ・部首のもとになる漢字
 - ・画数が多いために児童の負担になることのない漢字
- (4) 漢字の音訓については2年生までは、「読み方が新しい漢字」の表題で、各教材末に例1のように掲載する。また、3年生からは、新出漢字は「新しく学習する漢字」の表題で、各単元教材末にある新出漢字を、文中の語句を抜き出して例2のように音訓と共に示す。また新出音訓は「読み方が新しい漢字」（例1に同じ）、熟字訓は例3のように「特別な読み方をする言葉」の表題で音訓とともに示す。この時、訓を示す場合、送り仮名は第2つなぎ符（㇀㇁）を用いる。なお、原典の巻末にある「この本で習う漢字」、該当学年までに習った漢字は削除する。

例1 「だい」すき（おお㇀㇁きい）（1年）

例2 「ひら」く（カイ□ひら㇀㇁ける□あ㇀㇁く□あ㇀㇁ける）□□「カイ」テン□□みちが□「ひら」ける□□ふたが「あ」く□□どあを□「あ」ける。（3年）

例3 「けさ」（こん□いま、ちょー□あさ）（3年）
- (5) 点字表記に関する新出事項は、該当の各教材末に掲載する。また、各巻の末尾に「この本で習った点字」として、まとめて掲載する。さらに、第1学年から第4学年で点字表記に関するドリルを挿入する（資料1）。
- (6) 普通の文字の表記符号を点字符号に変換する場合には、可能な範囲で対応措置を講じる。
- (7) 表、グラフ、図等は、点字や点図による表現の可能性と理解の難易度を踏まえて修正したり、削除したりする。
- (8) 原典の「右（左）の」、「上（下）の」などの表現を、「この」、「次の」に修正する。
- (9) 句読点等は、小学部第1学年から原則として原典どおりに使用する。

- (10) 原典ページは、ページ行に「メの字」で挟んで左側に挿入する。児童に周知するためにこのことを各学年各巻目次の最後に示す。

2 編集の具体的内容

具体的な修正内容のうち、特記すべきものは以下のとおりである。

- (1) 大幅な差し替えや修正等を行った部分については、「3 参考資料」として掲載する。
- (2) 小学部第1学年第1巻の点字学習のための導入教材の取扱いに当たっては、「点字学習の手引（平成15年 改訂版）」（平成15年文部科学省）を参照されたい。なおこの取扱いに当たっての一般的留意事項は、次のとおりである。
 - ア 当初から両手読みの指導を重視し、読速度の左右差が大きくなるよう留意する。
 - イ 手指の行たどり、行がえ動作の学習をどのページでも重視する。
 - ウ 点の位置の弁別学習を十分に行い、安易に文字の指導に進まないようにする。
 - エ 練習教材がなお不足する場合には、児童の習熟度に合わせて練習教材を補充する。
 - オ 「点の位置の弁別」以降の教材では、点の位置を確認する手がかりとして「メの字」を用いていることに留意する。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1上	1		修正	「はる」 (とびらの絵のうち、チューリップ、タンポポ、蝶の点図を入れた。)	編集の具体的方針(7)による。
	8		修正	「おはなし よんで」 (挿絵を次のことばに修正した。) □□□□いろいろな おはなし □□かさじぞー □□きんたろー □□さると かに □□はだかの おーさま □□うらしま たろー □□はなさか じじい □□つるの おんがえし □□うさぎと かめ □□あかずきん □□3びきの こぶた	編集の具体的方針(2)による。
	10		修正	「どうぞ よろしく」 (挿絵のカードを次のように修正した。) □□カードを こうかん しましょー <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 1ねん 1くみ すずき まさえ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 1ねん 1くみ たなか つよし </div> </div>	編集の具体的方針(2)による。
	12		修正	「うたに あわせて あいうえお」 (表題の後に太陽の点図を入れた。)	編集の具体的方針(7)による。
	16～17		修正	「うたに あわせて あいうえお」 (次のように修正した。) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> あいうえお </div> □□あおい□□うえ□□え□□いえ□□あう □□あ□□あめ□□あり□□あひる □□い□□いす□□いるか□□いのしし □□う□□うし□□うみ□□うちわ ……	編集の具体的方針(2)による。
18		修正	「たんけんしたよ、 みつけたよ」 (挿絵はいろいろなへやとして文章にした。) □□□□いろいろな へや □□しょくいんしつ □□たいいくかん □□おんがくしつ □□ほけんしつ □□かていかしつ □□りかしつ	編集の具体的方針(2)による。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1上	26		追加	「ねこと ねっこ」 資料1 (点字練習1-4) (促音教材を巻末ドリルに追加した。)	編集の具体的方針(2)(5)による。
	36~37		修正	「ことばを いれて ぶんをつくろう」 (次のように挿絵を文章化した。) □□きつねが はしる。 □□きつねが とぶ。 □□きつねが おちる。 □□きつねが わらう。 □□きつねが ☺☺☺☺ □□いぬが わらう。 □□とりが とぶ。 □□ろばが ねる。 □□くまが うたう。 □□さるが おちる。 □□☺☺☺☺が ☺☺☺☺	編集の具体的方針(2)による。
	45 47 49		修正	「いろいろな くちばし」 (きつつき, おうむ, はちどりのくちばしの写真を, それぞれ点図に修正した。)	編集の具体的方針(7)による。
	54		修正	「わ を え を つかって かこう」 (絵を文章化した。) わたし「わ」 がっこう「え」 いく。 わたし「わ」 ほん「を」 よむ。 わたし「わ」 じ「を」 かく。 . . .	編集の具体的方針(2)による。
	55		追加	「わ を え を つかって かこう」 資料2 (マスあけ教材を追加した。)	編集の具体的方針(2)による。
	56		追加	「おもちゃと おもちゃ」 資料1 (点字練習1-3) (拗音教材を巻末ドリルに追加した。)	編集の具体的方針(2)による。
	66		修正	「すきな もの, おしえて」 (挿絵の吹き出しを次のように修正し, おんなのこの返事も加えた。) □□なおき□□「すきな たべものを おしえてください。」 □□まみ□□「わたし, いちごが すきです。」	編集の具体的方針(2)による。
	73		追加	「てがみを かこう」 (作文の後に次の文を追加した。) はじめに, あてなを かきましよう。 おわりに, じぶんの なまえを かきましよう。 ぶんの かきはじめは 2マス あけましよう。 ぶんの おわりには まる (☺) を つけましよう。 てん (☺) の あとは 1マス, まる (☺) の あとは 2マス あけましよう。	編集の具体的方針(2)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1上	85		修正	「おおきな かぶ」 (かぶの点図を入れた。)	編集の具体的方針(7)による。
	88		追加	「かずと かんじ」 (数え方の所にお金の数え方を追加した。また、次の漢字を点線文字で挿入した。) 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十	編集の具体的方針(2)(3)による。
	92		修正	「じどう車くらべ」 (セダン型乗用車の点図を入れた。)	編集の具体的方針(7)による。
	98		差し替え	「じどう車くらべ」 (「かたかなを、よんだり かいりり しましろう」を「かたかなで かく ことば」として次の文に差し替えた。また、100ページのかたかなのことばも加えた。) □□□□カタカナで かく ことば □□ふつーの もじの ぶんにな、ひらがなの ほかに かたかなが つかわれて います。 つぎの ことばわ、 カタカナで かきます。 □□タイヤ□□バス□□トラック□□クレーン□□ フライパン□□カステラ□□ペンギン□□トランプ	編集の具体的方針(2)(7)による。
1下	15			「くじらぐも」 (文章を次のように修正し、しろくまの雲を点図にした。) □□どんな かたちの くもを おもいうかべますか。 くもと おはなし したい ことを かきましょー。 □□さなえ□□「おーい、しろくまさん。・・・」 □□しろくま□□「とても さむい ところえ・・・」	編集の具体的方針(2)(7)による。
	16~18		修正	「かんじの はなし」 (真空成型器で 山 水 雨 上 下 の5字を成り立ちも含めて入れた。 月, 田, 日, 川, 竹, 木 は漢字のみを点線文字で入れた。)	編集の具体的方針(3)による。
	23		追加	「よく 見て かこう」 (文を次のように追加した。) 文の おわりには、 まる (⋮) が ついて いますか。 字は 正しく かけて いますか。 文の かきはじめは、 2マス あけて いますか。 まる (⋮) の あとは、 2マス あけて いますか。 「わ」「え」「を」を 正しく つかって いますか。	編集の具体的方針(2)による。
	24		差し替え	「かたかな」 (次のように差し替えた。) つぎの ⋮⋮⋮⋮ の ひだりがわの ことばは	編集の具体的方針(2)(3)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1下				カタカナで かかれて います。 のばす おんの かきかたを くらべてみましょう。 ハンバーグ ㊦㊧㊨㊩ おばあさん シール ㊦㊧㊨㊩ おにいさん スープ ㊦㊧㊨㊩ すーじ セーター ㊦㊧㊨㊩ おねえさん ソース ㊦㊧㊨㊩ たいそー つぎの ことばも カタカナで かきます。 カップ ジャングル ニュース チョーク ヘルメット シャベル	
	26		追加	読み替え漢字の説明 (読み替えが出た時点で漢字の音訓を教材末に次のよう に追加した。以下、各学年とも同じ扱いをした。) □□□□よみかたが あたらしい かんじ □□㊦㊧だい㊦㊧すき (おお㊦㊧㊦㊧きい) □□㊦㊧㊦㊧の あとに くるのは おくりがなです。 (送り仮名は、第2つなぎ符 ㊦㊧㊦㊧ の後に書いた。)	編集の具体的方針(4) による。
	36		修正	「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 (次のようにカードで紹介する方法に修正した。) すきな 本や、おもしろかった 本を、ともだちに しらせましょう。 1 しらせたい 本を、えらびましょう。 2 しらせたい ことを カードなどに かいて みましょう。 1. 本の だいまい 2. おはなしの 中に でて くる 人や どうぶつ 3. どんな ことが あったか。 3 ともだちに きこえる こえで、はなしましょう。 ひろみさんが カードで ほんを しょうかいします。	編集の具体的方針(2) による。
	38		修正	「日づけと よう日」 (日 月 火 水 木 金 土を点線文字で入れた。)	編集の具体的方針(3) による。
	41 42		修正	「あつまれ、ふゆの ことば」 (ふゆ休み おとしだまから時計回りに入れた。) (カルタの絵札を削除し、読み札を点線枠で囲んで作っ た。さらに読み札の後に「よみふだにあわせてとりふだ をつくりましょー」を追加した。)	編集の具体的方針(2) による。
	52～53		修正	「おみせやさんごっこを しよう」 (おみせやさんごっこの様子を次のように修正した。) 1 がっきの おみせ 「こんにちは。」 「いらっしゃい。」 うって いる もの (ハーモニカ、たいこ、トランペット、ハープ、	編集の具体的方針(2) による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1下				タンバリン, フルート, シンバル, クラリネット, すず, カスタネット) (以下同様に, くだもののおみせ, のりもののおみせ, さかなのおみせ)	
	54~55		修正 削除	「かたかなの かたち」 (次のひらがなとカタカナを点線文字で入れた。) か き こ せ へ も や り カ キ コ セ ヘ モ ヤ リ ン ソ シ ツ ヌ ス ヲ ラ フ ワ ク セ ヒ マ ア (「まちがえやすい かたかな」は削除し, P55を次のように修正した。) つぎの ことばも かたかなで かきます。 コーヒー サッカー ミシン カヌー ガラス ボールペン テレビ シャワー	編集の具体的方針(2) (3)による。
	66~67			「にて いる かん字」 資料3 (本文を修正し, 次の漢字を点線文字で入れた。) 貝 見 学 字 人 入 木 本 右 石 右 左 土 上	編集の具体的方針(2) (3)による。
	82			「たぬきの糸車」 「たぬきの 糸車」を, たのしく こえに 出して よみましょう。 1. すきな ところは どこですか。 なおき「心に のこった ところを かきたいね。」 れいこ「たぬきを にがして いる ところを かこう。」 2. たぬきや おかみさんに なった つもりで, きょうかしよに ない ことばも かんがえましょう。 たぬき 「糸が たくさん できたよ。 おもしろかったな。」 3. どんな ふうに よむかを かんがえて, なんども れんしゅうしましょう。 みんなの まえで よんで たのしみましょう。 おはなしの じゅんに つなげる ことも できますね。	編集の具体的方針(2) による。
	92		修正	「正しく かこう」 (以下のように修正した。) 1 ねんかんに たくさん の てんじを ならいましたね。正しく つかって いますか。 つぎの ことに きを つけましょう。 1 「わ」「え」「を」を 正しくつかいましょう。 2 文の おわりには まる (⋮) をつけましょう。 3 人が はなした ことばを かく ときは かぎ (⋮ ⋮) を つかいましょう。	編集の具体的方針(2) による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1下				4 文の かきはじめは 2マス あけましょう。 5 てん (㊦) や なかてん (㊦) の あとは 1マス, まる (㊦) の あとは 2マス あけましょう。	
	巻末		追加	「おぼえておきたいかん字」 (「おぼえておきたいかん字」として、一年生配当漢字の中から次の漢字を点線文字で示した。) 大 犬 人	編集の具体的方針(3)による。
2上	2～3	下段	修正	「もくじ」 (下段にある絵は、児童の名前をつけ、会話文にした。その後、該当単元名をつけた。三つの会話文はもくじの最後に挿入した。) じろう「みんなに……かな。」(今週のニュース) みどり「行って……中。」(サンゴの海の生き物たち) ゆうた「ぼくが……聞いて。」(あつらいいな、こんなもの)	編集の具体的方針(2)による。
	15	下段	修正	「ふきのとう」 (脚付き棒線枠でくくり、言葉を並べた。) □□なのはな□□たんぼぼ□□すみれ □□ももいろ□□さくら□□わかくさいろ □□はるかぜ□□あおぞら□□ぼかぼか □□ちょうちょう□□つくし□□たねまき □□1ねんせい□□びかびかの□ランドセル	編集の具体的方針(2)による。
	14～15	上段	修正	(すみれ・たんぼぼ・ちょう・つくしの点図を挿入して、春の野原を表現した。)	編集の具体的方針(7)による。
	19～23		修正	(たんぼぼの花・拵がった綿毛・すぼんだ綿毛の点図を挿入した。)	編集の具体的方針(7)による。
	24		修正	「たんぼぼのちえ」 (絵を削除し、文の後に……をつけ、次のように表記した。) □□はるに□なると□…… →□  にち□たつと□…… →□ 	編集の具体的方針(2)による。
	27		修正	「かん字のひろば①」 資料4 (資料のように課題文を修正し、原典赤線部分を第1カギでくくり、言葉を並べた。また、必要な絵も言葉で表した。)	編集の具体的方針(3)による。
	34～36		削除 修正	「ともさんはどこかな」 (見開きの絵は削除し、大事なことを落さずに話したり聞いたりする学習のみとした。従って、36ページ「よく聞いて前のページの絵の中からもこさんをさがしましょう」は削除した)	編集の具体的方針(2)による。
	37	2	追加 削除	「同じぶぶんをもつかん字」 資料5 (課題文を資料のように追加・削除し、次の漢字を点線文字で	編集の具体的方針(2)・(3)・(7)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2上			修正	示し、読みがなをつけた。 木 林 森 村 本 休	
	38	上段 1	差し替	(課題文を次のように差し替えた。) つぎの「 」をつけたぶぶんは形がよくにたかん字です。	編集の具体的方針(3)による。
	39		修正	「かん字の書きじゅん」 (次の漢字の書き順を点線文字で示し、他の漢字の例は削除した。) 三 川 十	編集の具体的方針(2)・(3)による。
	42～43 48～49	上段 下段	修正	「スイミー」 (「まぐろに追われているスイミー」と「大きな魚のふりをしたスイミーたち」の点図を挿入した。)	編集の具体的方針(7)による。
	54		修正	「かん字のひろば②」 資料6 (資料のように課題文を次のように修正し、原典赤線部分を第1カギでくくり、言葉を並べた。また、次の漢字を点線文字で示した。 門 日 間)	編集の具体的方針(3)による。
	55	下段	修正	「もうすぐ夏休み」 (下段の注意事項を次のように修正して、「かぶと虫がとれるところ」の前に挿入した。) □□みんなに□伝える□ときは、 □□1. □きいた□あいて □□2. □きいた□こと □□3. □教えて□もらった□こと に□注意□しましょう。	編集の具体的方針(2)による。
	58	下段	差し替	「まる、てん、かぎ」 (例文を次の文と差し替えた。) ぼくわ、□かったよ。 ぼく、□わかったよ。 あさ、□ひが□のぼるよ。 あさひが、□のぼるよ。	編集の具体的方針(6)による。
	58～59	下段	削除	(「かぎ」を「第一かぎ」に変え、ノートに書くときの注意は削除した。)	点字表記の指導上大切な留意点を追加して修正した。
	63		修正	「あったらいいな、こんなもの」 (ドラえもんの点図を挿入した。)	編集の具体的方針(7)による。
	68	上段	修正	「カンジーはかせの大はつめい」 資料7 (「門」と「日」で「間」になるように漢字を点線文字で示し、資料のように図示した。図の説明文も加えた。)	編集の具体的方針(2)・(3)・(7)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2上	68	下段	削除 修正	(絵図は削除, 課題文も修正・削除し, 資料のように絵図の説明文を加えた。)	編集の具体的方針(2)・(3)による。
	69	上段	削除	(カンジー博士の絵図は削除した。)	編集の具体的方針(3)による。
	69	下段	修正 削除	(課題文を削除し, 絵図の説明文を加えた。)	編集の具体的方針(3)による。
	73	下段	修正	「サンゴの海の生き物たち」 (くまのみとイソギンチャクの点図を挿入した。)	編集の具体的方針(7)による。
	78		修正	「かん字のひろば③」 資料8 (課題文を次のように修正し, 原典赤線部分を第1カギでくり資料のように言葉を並べた。)	編集の具体的方針(2)による。
	巻末		追加	「おぼえておきたいかん字」 資料9 (「おぼえておきたいかん字」として, 一年生配当漢字の中から次の20の漢字を点線文字で追加した。) 目 耳 手 足 口 円 文 正 王 玉 男 女 米 先 生 糸 車 虫 草 花	編集の具体的方針(3)による。
2下	2～3	下段	修正	「もくじ」 (下段にある絵は, 児童の名前をつけ, 会話文にした。その後, 該当単元名をつけた。三つの会話文はもくじの最後に挿入した。) たかし・みどり「はっぴょうを聞くの, 楽しいな。」(こんなお話を考えた) じゅんこ「おもしろいお話と友だちになりたいな。」(スーホの白い馬) じろう「絵本を作ろう。」	編集の具体的方針(2)による。
	22		修正	「かん字の読み方」 資料10 (資料のように, 「上」「下」のかん字を点線文字で示し, 読みをつけた。)	編集の具体的方針(2)・(3)による。
	30		差し 換え	「こんなお話を考えた」 資料11 (課題文を修正し, 三枚の絵を説明した文と差し替えた。)	編集の具体的方針(2)による。
	36		追加 修正	「かたかなで書くことば」 (次のような説明文を追加し, それぞれのカタカナ言葉を第1カギでくくった。) 次の「」をつけた言葉は, ふつうの文字ではカタカナです。	編集の具体的方針(3)による。
	43	上段 5～12	削除 修正	「一本の木」 (5行目から, 以下のように文章を修正した。9行目以降は削除した。)	編集の具体的方針(2)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2下				たくさんの木をせつめいしている文をさがしましょう。せつめいをよみながら絵をかいてみましょう。	
	45		修正	「かん字のひろば④」 資料12 (資料のように課題文を修正し、原典赤線部分を第1カギでくり言葉を並べた。また、必要な絵も言葉で表した。)	編集の具体的方針(3)による。
	48	上段	修正	「何に見えるかな」 (矢印の形の点図を挿入した。)	編集の具体的方針(7)による。
	55		修正	「ことばであそぼう」 資料13 (「もんだい用紙」は脚付き棒線枠でくり、①～④を(1)～(4)の番号に変え、課題文も修正した。また、文と合う言葉を線で結ぶ課題を、4つの言葉から選択した表記に変えた。)	編集の具体的方針(2)による。
	58		修正	「なかまのことばとかん字」 資料14 (課題文を修正し、項目ごとに言葉を並べた。次の漢字は点線文字にし、読みを併記した。また、「家の人」は図示した。) 百 千 万 父 母 子	編集の具体的方針(2)(3)による。
	66		修正	「楽しかったよ、二年生」 (赤い点線の枠内の文章を、次のように修正・差し替えをした。) 1. まる (㊦) てん (㊦) かぎ (㊦ ㊦) は、正しくつかえましたか。 2. 「わ」「を」「え」や「しゃ」「しゅ」「しょ」やつまる音は、ただしくかけましたか。 3. マスあけは正しくできていますか。	点字表記の指導上大切な留意点を追加して修正した。
	67		修正	「かん字のひろば⑤」 資料15 (資料のように課題文を修正し、原典赤線部分を第1カギでくり、言葉を並べた。また、必要な絵も言葉で表した。)	編集の具体的方針(3)による。
	巻末		追加	「おぼえておきたいかん字」 資料16 (「おぼえておきたいかん字」として、二年生配当漢字の中から次の25の漢字を点線文字で示した。) 雨 空 天 弓 刀 牛 魚 肉 言 工 士 立 止 力 出 早 夕 心 青 白 年 中 小 町 丁	編集の具体的方針(3)による。
3上	13	欄外	追加	「きつつきの商売」 (欄外の「たちつぼすみれ」の絵は削除し、以下の説明文を脚注として付加した。) たちたちつぼすみれ・・・春、うすむらさき色の花をつける草花。花が咲いた後、伸びて、30センチメートルぐらいになる。	編集の具体的方針(7)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3上	21	下5	修正	「学習」 (課題文を次のように修正した。) 森の中の写真の説明を聞いて、そうぞうした音。	編集の具体的方針(2)による。
	23	上段	修正	(P23上段のハガキの宛名の書き方を資料のように修正した。) 資料17	編集の具体的方針(2)による。
	24~25		修正	「漢字の音と訓」 資料18	編集の具体的方針(3)による。
	31	下段	修正	「ありの行列」 (「行のはじめが1字下がっている」は、「行のはじめが2マスあいている」に修正した。)	編集の具体的方針(6)による。
	33		修正	「漢字の広場 二年生で習った漢字①」 資料19	編集の具体的方針(3)による。
	34	下段	修正	「国語辞典を使おう」 資料20 (P34下段は資料のように修正した。)	編集の具体的方針(3)による。
	36	上段	削除	(課題文にある()の中の漢字と、「のような、大きく書くかなと小さく書くかな(「や・ゆ・よ」「っ」)。」および「と『クラス』」の部分は削除した。)	編集の具体的方針(3)による。
	38		挿入	「わたしと小鳥とすずと」 (「じべた・・・ここでは「地面」という漢字が使われている。」という脚注を挿入した。)	編集の具体的方針(3)による。
	43		追加	「動物の写真がついているマンホールのふた」 (下段のメモは、次の課題文を追加して、本文の前に記述した。) 「知らせたいことを書くときには、つぎのことに注意して書きましょう。」	編集の具体的方針(2)による。
	44		修正	(「1字」を「2マス」に、「漢字」を「符号」に修正した。)	編集の具体的方針(6)による。
	48	下段	修正	「くわしくする言葉」 (絵を削除し、5行目の後に次の文を記載した。) 「(れい) 茶色い馬が走る。」	編集の具体的方針(7)による。
	49		修正	「漢字の広場 二年生で習った漢字②」 資料21	編集の具体的方針(3)による。
	53	上段	追加	「たしかめながら話す・聞く」 (同音異字の漢字を以下のように説明した。) 1. 服(衣服) - 福(幸福)	編集の具体的方針(3)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3上				2. 全面 (すべての面) - 前面 (前の面) 3. 人口 (人の数) - 人工 (人の手を加えること) 4. 汽車 (乗り物) - 記者 (記事を書く人)	
	64~65		削除修正	「本は友だち」 (絵を削除し、次の書名と作者名を挿入した。) □□「もりのなか」「またもりへ」(マリー・ホール・エッツ 文 まさきりこ やく) □□「ともだち」(片山令子 文) □□「はるにれ」(写真 姉崎一馬) □□「かいぞくオネション」(山下はるお 文) □□「大どろぼうホッツェンプロッツ」(プロイスラー 作) □□「せかいいちのはなし」(北 彰介 作) □□「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」(長谷川義史)	編集の具体的方針(7)による。
	69		修正	「漢字の広場 二年生で習った漢字③」 資料22	編集の具体的方針(3)による。
	72		修正	「へんとつくり」 (字形は削除し、以下のように修正した。また、P73の絵の中の「海」, 「流」れる, 「波」, 「港」, 「泳」ぐ, 「湯」は、本文上段の後に並べた。) □□□□「へん」 □□へんの中には、次のような名前のついたものがあります。 □□□□きへん □□黒「板」□□「板」の間 □□電「柱」□□「柱」時計 □□□□にんべん □□「住」所□□町に「住」む □□関「係」□□図書「係」 □□□□いとへん □□白「紙」□□手「紙」 □□新「緑」□□「緑」色 (以下同じ)	編集の具体的方針(3)による。
	74		修正	「『分類』ということ」 (絵は削除し、課題文を下記のように修正した。) ここに、いろいろなかっこうをした22匹のねこの絵があります。ねこのかっこうから二つか三つのグループに分けることにしました。	編集の具体的方針(7)による。
	82	下段	修正	「反対の意味の言葉」 (絵を削除し、言葉で示した。) □□□□ぼうし □□かぶる□←→□ぬぐ □□□□トレーナー	編集の具体的方針(7)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3上	82			□□きる□←→□ぬぐ □□□□ズボン □□はく□←→□ぬぐ □□□□くつした □□はく□←→□ぬぐ □□□□くつ □□はく□←→□ぬぐ	
3下	18	下3	削除	「ちいちゃんのかげおくり」 (「絵をかくように」を削除した。)	編集の具体的方針(2)による。
	19	下7	修正	「こそあど言葉」 (「上の絵を見て、」を「次の会話を読んで、」に修正し、その後に、4つの場面の会話文を掲載した。)	編集の具体的方針(2)による。
	21		修正	「漢字の広場 2年生で習った漢字④」 資料23	編集の具体的方針(3)による。
	23	1	修正	「すがたをかえる大豆」 (「大豆は、ダイズという植物のたねです。」を「大豆は、植物の『ダイズ』のたねです。」と修正した。)	編集の具体的方針(3)による。
	26	2～	修正 削除 追加	ダイズを「ダイズ」と修正した。(以下同じ) (写真と絵を削除し、次の言葉を追加した。) □□□□大豆からできるいろいろな食品 □□とうふ□□きなこ□□にまめ□□いりまめ□□ えだまめ□□もやし□□しょうゆ□□みそ□□なっとう	編集の具体的方針(7)による。
	33	上段	修正 追加	「カンジーはかせの音訓遊び歌」 (課題文のあとに、次の文を加えた。)	編集の具体的方針(3)による。
	34		削除 追加	「 」のついた言葉は同じ漢字を使います。 (取りふだの絵を削除し、次の文を加えた。) 読みふだに合わせて取りふだも作りましょう。	
	36	下段	削除	「せつめい書を作ろう」 (「横書きのとき」以下7行を削除した。)	編集の具体的方針(6)による。
42		修正	「漢字の広場 2年生で習った漢字⑤」 資料24	編集の具体的方針(3)による。	
46	上段	修正	「漢字の意味」 (課題文を次のように修正した。)	編集の具体的方針(3)による。	
	下段		次の文を読んで、どちらを思い浮かべますか。 「 」のついた言葉に当てはまる漢字を考えましょ う。意味を二通り考えられましたか。		
47	上段		次の文の「 」をつけた部分は、同じ音でもちがう漢 字を使います。		

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
3下	52-57			「漢字と友だち」 (次の漢字を点線文字で示した。) 山 日 川 月 休 名 自 男 (田+力) 岩 (山+石) 問 (門+口) 荷 宿	編集の具体的方針(3)による。
	59		修正	「漢字の広場 二年生で習った漢字⑥」 資料25	編集の具体的方針(3)による。
4上	5		修正	「言葉の誕生日プレゼント」 (四角内の例文を次のように修正した。) ひこうきだいすき ろくぼく登りがとくい きもちのやさしい ひろきさん	編集の具体的方針(2)による。
	16	上段	修正	「三つのお願い」 (「音読のくふう」課題文を次のように修正した。) 「書きこみを・・・」→「音読メモを作ったりして」 (以下の文を挿入した) 「ああ」の後は間をおく。 「いやになっちゃう」は「やれやれ」という気持ちで読む。	編集の具体的方針(2)による。
	18~19		修正	「手紙を書く」 (手紙文を左ページ、解説を右ページの見開きに組んだ。また、手紙の書き方は点字の形式に修正した。) 1. 相手の名前, 日付, 自分の名前の順で書きます。 2. 初めのあいさつ 3. 本文 4. 終わりのあいさつ	編集の具体的方針(2)による。
	20		修正	「漢字の組み立て」 (次の部首の形を点線文字で示した。) くさかんむり うかんむり たけかんむり あめかんむり こころ れんが (れっか) しんにょー (しんにゅー) まだれ くにがまえ もんがまえ	編集の具体的方針(3)による。
	29		修正	「漢字の広場 三年生で習った漢字①」 資料26	編集の具体的方針(3)による。
	32~33	上	修正	「漢字辞典の使い方」 (漢字辞典の例と索引例は削除し、本文を活かして掲載した。修正箇所は以下の通り。) 漢字辞典は次のような時に便利です。 1. 漢字の読み方が分からない。 2. 漢字の読み方と意味を知りたい。	編集の具体的方針(3)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
4上	32～33	下1		3. にんべんの付く漢字にはどんなものがあるのかな。 4. 「東」という漢字の成り立ちを調べたい。 5. 「発」の付く言葉をいろいろ集めたいな。 総画引き 「倉」という字→漢字 部首引き 「節」という字→漢字 「即」→つくり	
	34	下	修正		
	40	下1	修正	「新聞記者になろう」 (以下のように修正した。) 下書きをするときは、マス数を計算しやすいように、 書くといいでしょう。	編集の具体的方針(6) による。
	42		追加	「いろいろな符号」 (例文の前に次の文章を入れた。) これらの符号を使って文章を書くと、次のようになります。	編集の具体的方針(6) による。
	43		修正	「漢字の広場 三年生で習った漢字②」 資料27	編集の具体的方針(3) による。
	47		追加	「ローマ字」(次の文字を点線文字で挿入した。) A I U E O K S T N H M Y R W a i u e o k s t n h m y r w	編集の具体的方針(3) による。
	68		修正 削除	「本のさがし方」 (写真を削除し、次の文章を追加した。) また本をさがすときは、図書館の人も相談にのってく れます。 (次の文は削除した。) 「画面にふれてそうさし、・・・あります。」	編集の具体的方針(6) による。
	69		追加	「漢字の広場 三年生で習った漢字③」 資料28	編集の具体的方針(3) による。
	78		修正	「伝え会うということ」 写真を削除し、次のように修正する。 「点字が使われているところの例」	編集の具体的方針(2)に よる。
86		追加	「漢字の広場 三年生で習った漢字④」 資料29	編集の具体的方針(3) による。	
4下	29		追加	「漢字の広場 三年生で習った漢字⑤」 資料30	編集の具体的方針(3) による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
4下	31	下段	削除 修正	「いろいろな意味を持つ言葉」 (絵を削除し、次のように言葉で説明した。) 1. 「ひく」 かぜを「ひく」 ピアノを「ひく」 つなを「ひく」 (以下同じ)	編集の具体的方針(3)による。
	41		修正	「熟語の意味」 (課題文を次のように修正した。) 1. にた意味を持つ漢字の組み合わせ 「救う(きゅう)」と「助ける(じょ)」—— 救助 (以下同じ)	編集の具体的方針(3)による。
	49	1 7	追加 修正	「言葉遊びの世界」 (本文に次のように追加した。) 「らくだ」(動物)と 楽をするの「楽だ」 (本文を次のように修正した) 上→前 下→後ろ	編集の具体的方針(3)による。
	55		追加	「漢字の広場 3年生で習った漢字⑥」 資料31	編集の具体的方針(3)による。
	56～59		修正	「カンジーはかせの漢字しりとり」 第一問 次の熟語は漢字しりとりになっています。熟語の意味を調べましょう。(解答を入れた。) 試験管→管理→理科→科学→学者 以下同じ 第二問, 第三問も同じ	編集の具体的方針(3)による。
	104	4 5	修正	「言葉のおうえんだん」 (課題文を次のように修正した。) ・「空いているふき出しに入れましょう。 → 考えてみましょう。 ・ふき出しの中の言葉を → 次のようなおうえんをしている人の言葉を	編集の具体的方針(2)による。
5上	4		削除 修正	「続けてみよう」 (新聞記事は削除し、文の頭の・には番号をつけた。) ・大阪と韓国の → 1. 大阪と韓国の 以下同じ	編集の具体的方針(7)(6)による。
	19	上9	修正	「言葉」 (ダッシュを点線にした。) 生まれたばかりの	編集の具体的方針(6)による。
	教材末		追加	(「新しい漢字」と「読み方が新しい漢字」を追加した。以下、同様に各教材末に追加した。)	編集の具体的方針(5)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
5上	20～21		修正	「漢字の成り立ち」 資料32 馬門上本米分粉	編集の具体的方針(3)による。
	22～23	下段	修正追加	「お願いの手紙, お礼の手紙」 (点字の手紙の形式にした。ゴシック文は対応するところに見開きページで以下のように入れた。)	編集の具体的方針(2)による。
	24		修正	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1. 前付け 相手の名前, 日付, 自分の立場と名前を書く。 会社・団体などに出すときは, 「御中」と書く。</p> <p>2. 初めのあいさつ 自分のしょうかいを入れる。</p> <p>3. 本文 手紙を書いた理由を説明する。 お願いの内容と, お願いの言葉を書く。</p> <p>4. 結びのあいさつ</p> </div> <p>普通の文字で書く場合は, 結びの言葉の後に後付けとして, 日付, 自分の立場と名前, 相手の名前の順に書く。 〈お礼の手紙の組み立て〉も点字の手紙の形式にした。</p>	
	25		修正	「敬語」 (文の頭の●は番号にした。) (「お(ご)・・・になる」は書き分けた。) 「お・・・になる ご・・・になる」 以下同じ	編集の具体的方針(6)による。
	39		修正	「言葉の研究レポート」 資料33 (図を修正した。)	編集の具体的方針(6)による。
	41～43	6～	修正	「『雨』が付く言葉」 (漢字の読み方を修正した) 「梅雨」を「うめの あめ」と表記した。	編集の具体的方針(6)による。
	41～43	6～	修正	(下段のゴシック部分是对应するところに見開きページで入れた。)	編集の具体的方針(7)による。
	42	表	修正	(表の部分を次のように修正した。) □□□□「雨足」 □□意味 ☂☂☂☂ 雨がふる様子。 □□使い方 ☂☂☂☂ 雨足が強くなった。 □□□□「雨上がり」 □□意味 ☂☂☂☂ 雨がやんだすぐ後。「上がり」に, 「おしまい」の意味がある。 □□使い方 ☂☂☂☂ 雨上がりの夜空は, 星がたいへんきれに見える。	編集の具体的方針(7)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
5上	44～45		差し替え	「仮名づかいの決まり」 資料34 (「仮名づかいの決まり」を「点字の仮名づかいの決まり」に差し替えた。)	編集の具体的方針(2) (6)による。
	49		修正	「漢字の広場 四年生で習った漢字①」 資料35	編集の具体的方針(3) による。
	52	10	修正	「千年の釘にいどむ」 (本文「写真の、古代の釘を見てほしい。」を次のように修正した。) 「ここに、古代の釘の写真がある。」	編集の具体的方針(7) による。
	63		修正	「漢字の広場 四年生で習った漢字②」 資料36	編集の具体的方針(3) による。
	66～67		修正	「カンジー博士の暗号解読」 ● は  で表す。以下同じ。 ▲ は  ■ は  ★ は  ◎ は 	編集の具体的方針(6) による。
	74～75		修正	「人と『もの』との付き合い方」 資料37 (〈感想などの例〉 〈課題の例〉 は 「感想などの例と課題の例」として対応するものを続けて載せた。)	編集の具体的方針(6) による。
	76	下段	修正	「〈相田さんの聞き取りメモ〉」 (下記のように修正した。) □□□□発表 坂口さん □□1. 調べたこと 家のごみ一週間分 -----, 多 い物 - 入れ物 包み紙 → とうふの入れ物 □□□□感想・意見など(自分の調査とくらべて) -----	編集の具体的方針(6) による。
	79		修正	「漢字の広場 四年生で習った漢字③」 資料38	編集の具体的方針(3) による。
	80～81		修正	「和語・漢語・外来語」 資料39	編集の具体的方針(2) による。
	105 ～106		修正	「通信文のいろいろ」 (例の横にある書き方の説明を、例の前に書いた。)	編集の具体的方針(6) による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
5上	108 ～109		修正	「どうして泣くのかな」 (中段の、泣くことに関連した言葉や表現を、後にまとめた。) □□泣くことに関連した言葉や表現 泣くに泣けない□□めそめそ□□しくしく□□じいん ワーワー□□泣けばすむってもんじゃない□□ しゃくり上げる□□こぶしをにぎりしめる 「なみだの詩集」(5年2組 早川葉月) 「『なみだの』の研究レポート」(5年3組 緑川ゆうき)	編集の具体的方針(7)による。
	112		修正	「ちえの言葉、言葉のちえ」 (中段の吹き出しの前に説明の言葉を入れた。) □□鈴木さんも菜の花畑を見に行きました。	編集の具体的方針(7)による。
5下	27		修正	「漢字の広場 四年生で習った漢字④」 資料40	編集の具体的方針(3)による。
	28	上段 下段	削除 修正	「言葉の組み立て」 (挿絵を削除し、「上の絵を参考にして」の文を次のように修正した。) 「ジャンピング台で」「大型積み木に」「プールへ」 「平均台から」などの言葉に続けて、・・・	編集の具体的方針(2)による。
	29	下段	修正	(例文を次のように修正した。) (1)「こめ」と「たわら」で「こめだわら」(以下同じ)	編集の具体的方針(2)による。
	38	上段	修正	「学習」 (表の部分を次のように修正した。) □□□□1.(放送日の)16日前 □□支局から受けた連らくにおどろき、・・・・・・ (以下同じ)	編集の具体的方針(7)による。
	40～41	8	修正	「取材して分かったこと」 (次のように修正した) □□校長先生□□□□15年前、町の「花いっぱい・・・」 □□委員会の高村さん□□□□5,6年生の・・・ (以下同じ)	編集の具体的方針(7)による。
	42～43		修正	「大原さんのグループのビデオニュース」 (挿絵を削除し、次のように修正した) □□映像□1.春の花だんの写真。 □□説明(音声)□□みなさんは、春の花だんをおぼえていますか。・・・・・・(以下同じ)	編集の具体的方針(7)による。
42～43		追加	(映像3.「花いっぱい運動」のポスターのあとに次の説明を入れた。) (花いっぱい花山町□□花まつりパレード5月5日)	編集の具体的方針(2)による。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
5下	45		修正	「漢字の広場 四年生で習った漢字⑤」 資料41	編集の具体的方針(3)による。
	48～49		修正	「漢字の読み方と使い方」 資料42	編集の具体的方針(3)による。
	51		修正	「〈体験を出し合う〉」 (挿絵を削除し、下記のように修正した) □□子安□□「電車に乗ってきっぷをどこかへ・・・」 □□坂口□□「出かけたついでに、シャンプー・・・」 □□山田□□「わたしもあるよ。先週ね、——。」□□ 「あのね。コップを落として、少しひびが・・・」 □□木村□□「待ち合わせをしたとき、・・・」 □□相田□□「ぼくなんてこの間さ——。」□□「『ほしてある毛布を・・・』と言われたのに・・・」	編集の具体的方針(7)による。
	52		修正	「〈分類・整理する〉」 (表の部分を下記のように修正した) 1. シャンプーを買いわすれた。 2. メモを書いたが、持たずに出かけた。 3. きっぷをどこにしまったかわすれた。 4. 毛布を取りこむのをわすれた。 1. ～4. → (1) うっかりわすれてしまう失敗 5. 待ち合わせ場所を確かめなかった。 6. スピーチメモを用意しなかった・・・ 5. 6. → (2) きちんと確かめなかったり・・・	編集の具体的方針(7)による。
	54～55		修正	「物語を作ろう」 (写真を削除し、次のような説明を入れた。) (6つの場面) 1. 山の夏と冬 2. 幼い兄弟と新幹線 3. 桜、学校 4. 猫と少年 5. カマキリ 6. 2匹の猿	編集の具体的方針(2)による。
	56	上段 1 3 4 7	修正 削除 修正	(課題文を下記のように修正した。) 「写真」→「この6つの場面」 「54・55ページの写真」→「6つの中」 「1まい」→「場面」 「写っている物」→削除 「55ページの上の写真」→「3. の場面」	編集の具体的方針(2)による。
	56	上段	修正	(図を修正した。) 資料43	編集の具体的方針(7)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
5下	56	下段 1	修正	(課題文を次のように修正した。) 「言葉を見ながら」→「言葉から」	編集の具体的方針(2)による。
	56	下段	修正	(ふきだしの言葉を下記のように修正した。) 木村「ほかの場面も物語に使ってみようかな。」	編集の具体的方針(2)による。
	66	6-7	修正	(課題文を次のように修正した。) 次は、友達どうしの会話の場面です。「」の部分 あなたの住んでいる地方では、どんな言い方をしますか。また、この中で「……」	編集の具体的方針(2)による。
	66	下段	修正	(挿絵を削除し、説明を入れた。) 資料44	編集の具体的方針(2)による。
	69		修正	「漢字の広場 四年生で習った漢字⑥」 資料45	編集の具体的方針(3)による。
	70~71		修正	「同じ読み方の熟語」 資料46	編集の具体的方針(3)による。
	72~73		修正	「学習したことを生かして」 (挿絵を削除し、その説明文を次の順序で記述した) 「手紙を書いた」 「物語を作った」 「ニュース原稿を書いた」 「レポートを書いた」 「いろいろな本をさがして読んだ」 「自分の感想をまとめた」 「話し合いをした」 「インタビューをした」 「資料を見せながら発表した」	編集の具体的方針(2)による。
	73	上段	修正	「学習計画例」 資料47 (表を修正した)	編集の具体的方針(7)による。
	73	上段	修正	(表の中の文を下記のように修正した。) 「…に線を引きながら読む。」→「…を抜き出しなが ら読む。」	編集の具体的方針(2)による。
	6上	22		修正	「漢字の形と音・意味」 資料48 次の漢字を点線文字で示す。 求 球 救 貨 花 化 精 静 晴 清 則 測 側 徒 往 復 徒 待 後 脳 臓 肺 胃 腸 [] [] []
32			修正	「漢字の広場 五年生で習った漢字①」 資料49	編集の具体的方針(3)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
6上	33	上6	修正	「短歌・俳句の世界」 （歴史的仮名遣いの短歌・俳句の表記は、歴史的仮名遣いで示し、現代語訳は該当部分の単語込みでその直後に（ ）で挿入した。） □□□□□□（短歌） □□□□石走る垂水の上（うえ）のさわらびの □□□□□□萌え出づる（いずる）春になりける… □□□□白鳥は（しらとりわ）悲しからずや空の青 □□□□□□海のを（あお）にもそまずただよふ （ただよう）	編集の具体的方針(6)による。
	39		修正	「ガイドブックを作ろう」 資料50 資料51 資料52	編集の具体的方針(2)による。
	44	下11	修正	「よりよい文章に」 「漢字や送り仮名のまちがいはありませんか。」を 「ますあけは正しくできていますか。」に。	編集の具体的方針(2)による。
	45		修正	「漢字の広場 五年生で習った漢字②」 資料53	編集の具体的方針(3)による。
	47		修正	「討論会の進め方」 資料54	編集の具体的方針(7)による。
	69		修正	「漢字の広場 五年生で習った漢字③」 資料55	編集の具体的方針(3)による。
	72		修正	「同じ訓をもつ漢字」 資料56	編集の具体的方針(3)による。
	79		追加	「みんなで生きる町」 （写真は削除し、「写真説明」として以下の内容で写真解説を挿入する。） ユニバーサルデザインの例□—□高低二つ設けられており、高さを選べる水飲み場。段差のない電車の乗降口。弱い力で水を出したり止めたりできる水道のせん。車いすにすわって植物にさわることのできる庭。大きくて操作しやすい照明のスイッチなど。	編集の具体的方針(2)による。
	84		修正	「漢字の広場 五年生で習った漢字④」 資料57	編集の具体的方針(3)による。
	85		修正	「日本で使う文字」 資料58 次の文字を点線文字で表す。 波 布 安 以 奈 保 阿 伊 奈 保 あ い な ほ ア イ ナ ホ	編集の具体的方針(3)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
6上	114		追加	「手紙の形式」 資料59 （「普通の文字（縦書き）の手紙の形式」「普通の文字（横書き）の手紙の形式」として原典通り表記した後、「点字の手紙の形式」を追加挿入する。）	編集の具体的方針(6)による。
	119		修正	「狂言 柿山伏」 （脚本の形式に則って、ト書き・情景描写は前後2マスあけて第1括弧で表記する一方、古語・漢字の特殊な読み・音便によって変化した語の現代語訳などはその直後に該当語込みで第1括弧で挿入する。） （例） □□山伏□□貝をも持たぬ山伏が、貝をも持たぬ山伏が、道々うそをふこうよ。□□（と歌う。）□□これは出羽の羽黒山よりいでたる、かけ出の（山で修行を終えたばかりの）山伏です。…（p. 119上09） 空飛ぶ鳥をも目（め）の前へ…（p. 119下04） 一矢に射殺いて（ころして）…（p. 122上08） 羽（はね）をのして（のぼして）…（p. 123上09）	編集の具体的方針(6)による。
6下	16	15	修正	「イーハトーヴの夢」 （脚注として、以下の内容を挿入する。） かねじゃく□一□「かね」は「きょく」（ま__がる）という漢字で表す。	編集の具体的方針(2)による。
	17		修正	（写真は削除し、脚注として写真の説明文を修正し、以下のように加える。） 賢治が農業技術を学んだ盛岡高等農林学校の本館は、現在は岩手大学農学部付属の農業教育資料館になっている。 賢治が先生になった郡立稗貫農学校は、後に県立花巻農学校となる。賢治は、農業だけでなく、英語や数学も教えた。	編集の具体的方針(2)による。
	25		修正	（写真は削除し、「写真説明」として以下の内容で写真説明を挿入する。） （写真説明） 羅須地人協会の建物は、県立花巻農業高校に移され、復元された。この中の教室では、賢治は、農民のために芸術の話などをした。伝言板には、今も、賢治が近くの畑にいるかのように、 □□□□下ノ □□□□畑ニ □□□□居リマス □□□□□賢治 の文字が残されている。	編集の具体的方針(2)による。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
6下	28		修正	「熟語の成り立ち」 資料60	編集の具体的方針(3)による。
	31		修正	「漢字の広場 五年生で習った漢字⑤」 資料61	編集の具体的方針(3)による。
	31		修正	「漢字の広場 五年生で習った漢字⑥」 資料62	編集の具体的方針(3)による。
	66		修正	「カンジー博士の漢字クイズ大会」 資料63	編集の具体的方針(3)による。
	74	脚注	修正	「海の命」 イサキ□—□緑色を帯びた褐色の体に、茶色の縦じまが数本走っている魚。 <u>体長40センチメートルくらい。</u> (図版削除) ブリ□—□ 背中は暗い青色、腹は銀白色で、中央に1本の筋が入っている魚。 <u>体長1メートルくらい。</u> (図版削除)	・本文中の表現が、魚の大きさや重さなどを具体的に示していることが多いところから。
	93	上	修正	「特別な読み方をする言葉」 資料64	
		下	修正	「特別な読み方の点字」 表題「特別な読み方の片仮名」を「特別な読み方の点字」とし、点字の特殊音を整理する。	編集の具体的方針(6)による。

1 参考資料

資料1 点字表記に関するドリル

1 年上巻末

□□□□点字練習 1-1

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□おかあさん□□おばあさん

□□おにいさん□□おじいさん

□□おねえさん□□ええ□□ねえ

□□おとーさん□□いもーと□□おとーと

□□□□点字練習 1-2

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□せんせい□□とけい□□ていねい

□□おおきい□□おおかみ□□とおい□□こおり

□□ふーせん□□ゆーひ□□すーじ

□□ええ□□ねえ

□□たいそー□□こーえん□□おーえん

□□□□点字練習 1-3

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□きゃんぷ□□きゅーしょく□□きょーしつ

□□でんしゃ□□しゅくだい□□しょくじ

□□ぎゅーにゅー□□こんぴゅーた□□びょーいん

□□じゃんけん□□ちょきん□□りよこー

□□□□点字練習 1-4

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□せっけん□□とらつく□□きって□□らっぱ□□きつぶ

□□がっこー□□あまがっぱ□□びすけつと□□みずでっぱー

□□がっかり□□うっかり□□こっそり□□びっくり

□□□□点字練習 1-5

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□みんなが□して□いる。

□□みんなが□しって□いる。

□□くまさんが□いた。

□□くまさんが□いった。

1 年下巻末

□□□□点字練習 1－6

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□ちちむ□□こづち□□つづく□□かたづける

□□こづつみ□□おこづかい□□みかづき□□ゆのみぢゃわん

□□せかいじゅー□□ほおずき□□みみずく□□いなずま

□□うなずく□□つまずく

□□ちず□□じめん□□ぬのじ

□□□□点字練習 1－7

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□10こ□□7さい□□2せんえんさつ

□□1 ㊦えん□□5 ㊦おくえん□□3 ㊦りっとる□□2 ㊦わりびき

□□2，3にち (㊦㊦㊦㊦㊦) □□4，50にん (㊦㊦㊦㊦㊦㊦)

□□5，6百えん (㊦㊦㊦㊦㊦㊦㊦) □□7，8百 (㊦㊦㊦㊦㊦㊦)

□□□□点字練習 1－8

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□ひとつ□□ついたち

□□ふたつ□□ふつか

□□みつつ□□みっか

□□よつつ□□よっか

□□いつつ□□いつか

□□□□点字練習 1－9

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□わたしわ□1ねんせいです。

□□はなわ□きれいです。

□□えきえ□おとーさんを□むかえに□いきます。

□□へやの□なかえ□はいります。

2 年上巻末

□□□□点字練習 2－1

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□いけんを□いう。

□□はっきりと□いう。

□□わるくちを□いうのわ□よく□ない。

□□はやくちで□いうと□ききとれない。

□□おとーとが□いうよーに□しよー。

□□ほかの□ひとに□いう。

□□□□点字練習 2-2

□□□□まちがいを さがしてみよー (正解をカッコ内に示す)

□□おかーさん (おかあさん) □□おばーさん (おばあさん)

□□おにーさん (おにいさん) □□おじーさん (おじいさん)

□□おねーさん (おねえさん) □□ええ□□ねえ

□□おとうさん (おとーさん) □□いもうと (いもーと) □□おとうと (おとーと)

□□□□点字練習 2-3

□□□□まちがいを さがしてみよー (正解をカッコ内に示す)

□□せんせー (せんせい) の□とけー (とけい)

□□おーきな (おおきな) □□こーり (こおり)

□□きーろい (きいろい) □□ふーせん

□□ゆうやけ (ゆーやけ) □□すうじ (すーじ) □□たいそう (たいそー)

□□□□点字練習 2-4

□□□□まちがいを さがしてみよー (正解をカッコ内に示す)

□□こずつみ (こづつみ) □□こずち (こづち) □□つづく (つづく) □□かたずける (かたづける)

□□おこずかい (おこづかい) □□みかづき (みかづき) □□ひとつつつ (ひとつつつ)

□□せかいぢゅー (せかいじゅー) □□みみづく (みみづく) □□いなづま (いなづま)

□□ぢしん (じしん) □□ぬのぢ (ぬのじ)

2年下巻末

□□□□点字練習 2-5

□□□□よんでみよー, かいてみよー

□□あべ□さん□□こまつ□さま□□たなか□せんせい

□□おねえちゃん□□さかなやさん□□くまさん

□□□□点字練習 2-6

□□□□よんでみよー, かいてみよー

□□かみのけ□□とこのま□□このは

□□ごむまり□□うすちやいろ□□なきむし

□□まよなか□□だいとかい□□しんかんせん

□□□□点字練習 2-7

□□□□よんでみよー, かいてみよー

□□まん□8さい□□まる□1にち

□□もと□□こーちょー□せんせい□□しん□こくさい□くーこー

□□□□点字練習 2－8

□□□□よんでみよー、かいてみよー
□□ふゆやすみ□□じかんわり□□ひなまつり
□□こーつー□□じこ□□じゃんけん□□たいかい
□□ごみ□□おきば□□しか□□いし□□ばす□□ていりゅーじょ
□□くりすます□□いぶ□□めりー□□ごー□□らうんど

3年上巻末

□□□□点字練習 3－1

□□□□まちがいを さがしてみよー (正解をカッコ内に示す)
□□おうかみ (おおかみ) が□きた。
□□がっこう (がっこー) え□いく。
□□おかーさん (おかあさん) に□はなす。
□□うちゅーわ□とうい (とおい)。
□□おにーさん (おにいさん) と□あそぶ。

□□□□点字練習 3－2

□□□□まちがいを さがしてみよー (正解をカッコ内に示す)
□□5かかん (いつかかん) も□かかった。
□□せんせー (せんせい) に□しかられた。
□□さかなや□さんに (さかなやさん) □なりたい。
□□せかいぢゅー (せかいじゅー) に□ひろがる。
□□おこずかい (おこづかい) を□もらった。

□□□□点字練習 3－3

□□□□よんでみよー、かいてみよー
□□ある□ひの□ことです。
□□この□ほんの□つづきが□よみたく□なりました。
□□こー□いう□ばんわ□そとに□でたくわ□ありません。
□□でも□どー□しても□でかけなくてわ□なりません。
□□ああ□いやだと□おもいました。

□□□□点字練習 3－4

□□□□よんでみよー、かいてみよー
□□ねこみたいな□こえを□きいた。
□□やまのよーな□しごとを□かかえて□いる。
□□あの□こえわ□いもーとらしい。
□□あすわ□ゆきが□ふるらしい。

□□ちーむめいを□きめよーと□した。

3年下巻末

□□□□点字練習3-5

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□きただけで□いみの□わかる□ものが□たくさん□あります。

□□かく□ことと□よむ□ことわ，□たいせつです。

□□あさ□おきた□ときに□「おはよー」と，□あいさつを□する。□□どんな□ふーに□なったのかな。

□□ほんを□よんで□いる□うちに，□そとわ□くらく□なって□いた。

□□□□点字練習3-6

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□この□ほんわ，□だんだん□おもしろく□なく□なった。

□□そんな□ことわ，□ぼくと□かんけい□ないよ。

□□びよーきが□すこし□よく□なった。

□□ともだちが□きて□くれたので，□さびしく□なく□なった。

□□あきにわ□たいふーの□ひがいが□すくなく□ない。

□□□□点字練習3-7

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□うちゅーわ□どー□なって□いるのか□いつか□しらべて□みたい。

□□おふろの□ゆかげんを□みて□みる。

□□ここに□たいせつな□ことが□かいて□ある。

□□そとわ□ゆきが□ふって□いる。

□□つくえの□うえを□きれいに□かたづけて□いる。

□□□□点字練習3-8

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□いぬねこ□びよーいん□まくら□かばー□□うけつけ□まどぐち□□あいす□くりーむ□□
こぶとり□じいさん

□□いしがき□いちご□□からす□のえんどー□□こーのとり□□ふんころがし

4年上巻末

□□□□点字練習4-1

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□おばけ□やしきが□こわくて□さけびつづけて□いる。

□□ろーかわ□すべりにくく□する□ひつよーが□あります。

□□やきゅー□たいかいが□めのまえに□ちかづいた。

□□かきごおりを□たべて□いる。

□□きの一の□できごとを□おもしろおかしく□はなして□いる。

□□□□点字練習 4-2

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□ははに□ともだちを□しょーかい□した。

□□べんきょー□したり□うんどー□したり□とても□たのしい□まいにちです。

□□あそびの□じゃま□する□いもーとわ，□きらいだ。

□□かぜで□がっこーを□おやすみ□します。□

□□こーていを□1 しゅー□すると□つかれる。

□□□□点字練習 4-3

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□はしらどけい□□ちからづよい□□ちゃのみぢゃわん□□かぶしきがいしゃ□□すいしゃごや

□□むかし□むかしの□おはなしです。

□□とおい□とおい□くくに□ひとりの□おーじよさまが□すんで□いました。

□□しゃしんを□ぱちり□ぱちり□うつした。

□□□□点字練習 4-4

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□ああ□いえば□こー□いう。

□□ええ，□その□はなしわ□しって□います。

□□もー□すぐ□5ねんせいだ。

□□どーして□はやく□はしれないんだろー。

□□そのまま□まっすぐ□あるいて□いって□ください。

4年下巻末

□□□□点字練習 4-5

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□ゆみこを□めちやくちやに□たかい□たかい□する。

□□うたを□うたったり□して□いました。

□□うつくしい□じで□せいしょ□する。

□□しっばい□して□かたを□おとす。

□□きぼーを□もって□しんじる□みちを□すすみなさい。

□□□□点字練習 4-6

□□□□よんでみよー，かいてみよー

□□じぶんの□からだの□ことを□かんがえる。

□□その□ためにわ□なにが□ひつよーか□しっかり□りかい□する。

□□くちに□ものを□いれた□まま□しゃべってわ□いけません。

□□こー□して□べんきょー□して□いる□ときも、□ねて□いる□ときでさえも、□
からだわ□はたらいて□います。

□□ときどき□わたしわ□わすれものを□して□しまう。

□□□□点字練習4-7

□□□□まちがいを さがしてみよー (正解をカッコ内に示す)

□□きょーから□1つき (ひとつき) ごとに□やきゅーの□しあいが□おこなわれる。

□□じゅんびたいそう (じゅんび□たいそー) を□しっかり□しましょー。

□□おねーさん (おねえさん) わ□でんしゃで□かえって□いった。

□□おーい、□こっちの□ほう (ほー) が□いいよー。

□□おーきい (おおきい) □かぶが□なべの□なかで□にえて□いる。

□□□□点字練習4-8

□□□□まちがいを さがしてみよー (正解をカッコ内に示す)

□□ほんを□よんでください (よんで□ください)。

□□そとに□でてみる (でて□みる)。

□□けいじばんに□はってある (はって□ある)。

□□この□どらまわ□おもしろくない (おもしろく□ない)。

□□はやく□やらないと□あとで□つらくなる (つらく□なる)。

□□□□点字練習4-9

□□□□まちがいを さがしてみよー (正解をカッコ内に示す)

□□こずつみ (こづつみ) が□きょう (きょー) □とーちゃくした (とーちゃく□した)。

□□どうなつ (どーなつ) を□たなかせんせい (たなか□せんせい) が□かってくださった (かかって□く
ださった)。

□□4かかん (よっかかん) □ごちそう (ごちそー) を□たべ□つづけた (たべつづけた)。

□□おおどーり (おおどおり) の□こうさてん (こーさてん) を□みぎえ□まがると□
みかづき (みかづき) が□みえていた (みえて□いた)。

□□おさかなや□さん (おさかなやさん) で□かいものを□し、□こーり (こおり) を□
いれてもらった (いれて□もらった)。

資料2 「わ を え を つかって かこー」 (1年上 P54)

マスあけに きを つけましょー。

わたしわ 1ねんせいです。

はなわ きれいです。

と いう ぶんを

わたしわ1ねんせいです。

はなわきれいです。

のよーに つづけて かいてわ いけません。

つぎの ぶんを ただしく かきましょー。

えきえおとーさんをむかえにいきます。

へやのなかえはいります。

資料3 「にて いる かんじ」 (1年下 P66～)

□□1□□つぎの 文の 「 」の ところは かたちの よく にた かんじです。

□□「貝」を「見」つける。

□□「学」校で 「字」を ならう。

□□「人」が 「入」って くる。

□□「木」の 「下」で 「本」を よむ。

□□「右」足で 「石」を ける。

□□「右」を 見て, 「左」を 見る。

□□「土」を もり「上」げる。

□□2□□にて いる かんじ

かい	み_る
貝	見

がく	じ
学	字

ひと	はい_る
人	入

き	ほん
木	本

みぎ	いし
右	石

ひだり	みぎ
左	右

うえ	つち
上	土

資料4 「かん字のひろば①」 (2年上 P27)

つぎのことばをつかって、うんどうかいのようすを書きましょう。

かん字には「 」がつけてあります。

□□「あおぞら」 □□「てんき」

□□おうえん □□「み」る □□

□□「せんせい」 □□「た」つ

□□「たけ」うま □□あみ □□「はい」る □□「で」る □□「のぼ」る

「お」りる □□たいやひき □□「ちから」 □□「たま」ころがし

資料5 「同じぶぶんをもつかん字」 (2年上 P37)

かん字には同じぶぶんをもつものがあります。

次の「 」をつけたかん字で同じぶぶんをさがしましょう。

	はやし	もり
	林	森
き	むら	やす_む
木	村	休
	ほん	
	本	

資料6 「かん字のひろば②」 (2年上 P54)

つぎのことばをつかって、犬といっしょにさんぽするお話をつくりましょう。

かん字には「 」がつけてあります。

□□「いぬ」 □□「な」ふだ

□□「かわ」 □□「いし」 □□「はな」 □□「くさ」

□□「た」んぽ □□「はやし」

□□「くるま」 □□「まち」 □□「がっこう」 □□「むら」

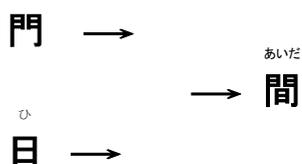
□□「もり」 □□「やま」 □□「ゆうひ」

資料7 「カンジーはかせの大はつめい」 (2年上 P68~P69)

P68上段

「もん」というかん字と、「ひ」というかん字をいれます。

「あいだ」というかん字ができあがります。



P68下段

つぎの二つのかん字を入れると、あたらしいかん字ができあがります。

(1行空け)

「た」というかん字と、「ちから」というかん字をきかいに入れると、「おとこ」というかん字ができあがります。

「いし」というかん字と、「やま」というかん字をきかいに入れると、「いわ」というかん字ができあがります。

(1行空け)

「ひ」というかん字と、「せい」というかん字をきかいに入れると、「ほし」というかん字ができあがります。

「かい」というかん字と、「いと」というかん字をきかいに入れると、「え」というかん字ができあがります。

P69下段

「はな」というかん字を矢につけてとばします。「ひ」というかん字のまにめいちゅうすると、「はなび」ということばができあがります。

「せん」というかん字を矢につけてとばします。「せい」というかん字のまにめいちゅうすると、「せんせい」ということばができあがります。

「きょう」というかん字を矢につけてとばします。「しつ」というかん字のまにめいちゅうすると、「きょうしつ」ということばができあがります。

「こう」というかん字を矢につけてとばします。「もん」というかん字のまにめいちゅうすると、「こうもん」ということばができあがります。

「け」というかん字を矢につけてとばします。「いと」というかん字のまにめいちゅうすると、「けいと」ということばができあがります。

資料8 「かん字のひろば③」 (2年上 P78)

つぎのことばをつかって、一週間のできごとを書きましょう。かん字には「」がつけてあります。

□□「げつ」 □—□「せい」もん□□「1ねんせい」

□□「か」 □—□「もじ」を□つくる

□□「すい」 □—□「やす」み□じかん

□□「もく」 □—□「いと」でんわ

□□「きん」 □—□「あめ」

□□「ど」 □—□「はや」おき

□□「にち」 □—□「むし」とり

資料9 「おぼえておきたいかん字」 (2年上 巻末)

□□□□おぼえて□おきたい□かんじ

目 耳 手 足 口 円 文 正 王 玉
男 女 米 先 生 糸 車 虫 草 花

資料10 「かん字の読み方」 (2年下 P22)

じょう	か
うえ	げ
うわ	した
かみ	しも
あ__げる□□あ__がる	さ__げる□□さ__がる
のぼ__る	くだ__る□□くだ__す□□くだ__さる
	お__ろす□□お__りる

上

下

資料11 「こんなお話を考えた」 (2年下 P30)

1. ここに三まいの絵があります。この絵からお話をつくりましょう。
- 一まい目の絵 —— キツネとうさぎが野原でおはなししています。
- 二まい目の絵 —— キツネとうさぎが野原を走り回っています。
- 三まい目の絵 —— キツネとうさぎが橋の上から池をのぞいています。

資料12 「かん字のひろば④」 (2年下 P45)

□□つぎのことばをつかって、文を書きましょう。かん字には「 」がつけてあります。

□□おみせ□□だいこん□□「8ぼん」□□「ひやくえん」

「かい」がら□□「5」まい□□「90_〇えん」

ランプ□□「せんえん」□□ねこ□□「3」びき

ことり□□「4」わ

□□ぎょーれつ□□「おー」さま□□けらい□□「6にん」

うま□□「2」とー□□

□□おしろ□□やしのき□□「1ぼん」□□はた□□「7ぼん」

□□(れい)

□□おみせでわ、□ランプを□「4」こ□うって□います。□□「ひと」つ□「せんえん」です。

資料13 「ことばであそぼう」 (2年下 P55)

- もんだい□よーし
- (1)から□(4)の□ぶんと□いちばん□ぴったりの□ことばを、□つぎの□よっつの□ことばから□えらびましょー。
- (1) □おかあさんが□おこる。
- (2) □ごはんを□たべる。
- (3) □まめの□きが□のびる。
- (4) □さといもを□にる。
- (1行空け)
- もりもり□□ぐつぐつ□□ぐんぐん□□ぶんぶん

資料14 「なかまのことばとかん字」(2年下 P58 ~59)

□□なかまの□ことばと□かんじを、□いっしょに□おぼえましょー。

(1行空け)

□□□□おかね

□□1__えん□□10__えん□□ひゃくえん□□せんえん□□

1まんえん

ひゃく せん まん
百 千 万

□□□□いえの□ひと

□□おや□——□こ

		あに
ちち		あね
		わたし
はは		おとーと
		いもーと
ちち	はは	こ
父	母	子

□□□□きせつ

□□はる□□なつ□□あき□□ふゆ

□□□□きょーか

□□こくご□□さんすー□□せいかつ□□おんがく□□たいいく□□ずこー

□□□□とき

□□あさ□□ひる□□よる

□□ごぜん(あさから□ひるまで) □□ごご(ひるから□よるまで)

□□□□ほーがく

□□ひがし□□にし□□みなみ□□きた

資料15 「かん字のひろば⑤」(2年下 P67)

□□つぎの□ことばを□つかって、公園の□ようすを□書きましょう。□□かん字には□「」が□つけて□あります。

□□トランペット□□「おと」□□「みみ」□□「め」□□はく「しゅ」

□□マフラー□□「あか」□□「しろ」

□□ハンバーガー□□「くち」

□□トイレ□□「みぎ」□□えき□□「ひだり」

□□あひる□□「だい」□□「ちゅー」□□「しゅー」

□□「おとこ」の「こ」□□「おんな」の「こ」□□かけ「あし」

□□ (れい)

□□トランペットの□きれいな□「おと」に、□みんな□「みみ」を□すまして□います。

資料16 「おぼえておきたいかん字」 (2年下 巻末)

□□□□おぼえて□おきたい□かんじ

雨 空 天 弓 刀 牛 魚 肉 言 工
士 立 止 力 出 早 夕 心 青 白
年 中 小 町 丁

資料17 「学習」 (3年上 P23)

宛名の書き方

(194__0001)

町田市つくし野

5丁目3-1

山下新一 様

□□□□ (194__0001)

町田市森野

6丁目4-1

山下のりこ

資料18 「漢字の音と訓」 (3年上 P24~P25)

今日は「朝」早く起きて、ゆっくり「朝」食をとった。

漢字の読み方には、「音」と「訓」があります。

前の文の「 」をつけた部分の漢字には、つぎのような二通りの読み方があります。

(音) ちょう□ー□「朝」食□□早「朝」

(訓) あさ□ー□「朝」□「朝」日

「ちょう」と聞いただけでは、意味がよく分かりませんが、「あさ」と聞くと分かります。「音」の読み方には、それだけでは意味の分かりにくいものも多く、「訓」の読み方には、聞いただけで意味の分かるものがたくさんあります。

□□ (音) りょ□ー□「旅」行□□「旅」館

□□ (訓) たび□ー□「旅」□□「旅」人

- （音）やく□ー□火「葉」□□「葉」局
- （訓）くすり□ー□「葉」□□かぜ「葉」

新しい漢字を学習するときには、どんな読み方があるのか、どんな意味で、どんなつかい方をするのかをたしかめるようにしましょう。

ひろこ「読み方がたくさんある漢字をさがしてみよう。」
次の「 」をつけた言葉は、同じ漢字を使って表します。

- 読み方
- （音）せい□□しょう
- 「い」きる□□「い」かす□□「い」ける□□「う」まれる□□「う」む□□「は」える□□「は」やす
- （訓）なま

ひかる「同じ音の漢字をあつめたよ。」

- 「シン」
- 「森」林□□両「親」（父母）□□「新」聞□□中「心」
- 「コウ」
- 「工」場□□「高」校□□「交」通□□「公」園

さとし「同じ訓の漢字もあるね。」

- 「はな」
- かざりの「花」
- 顔にある「鼻」

資料19 「漢字の広場 2年生で習った漢字①」（3年上 P33）

- 漢字の広場
- 2年生で習った漢字（1）
- 男の子は、ぼうけんをして山おくの岩のかげにいたねこをさがしました。そのお話に出てきたことばです。つぎの言葉をつかって、お話を書きましょう。2年生で習った漢字には「 」がつけてあります。
- 「ある」く□□「い」く□□「ゆみや」□□「ちず」□□「とうざいなんぼく」
- 「し」る□□「ほうがく」□□「おし」える□□「た」べる
- 「たに」□□「はし」る□□「と」まる□□「とお」る
- 「いわ」□□「まる」い□□「ひ」く□□「げん」き□□「かえ」る
- （れい）
- 山のふもとに、「東西南北」をしめす道しるべがありました。

資料20 「国語辞典を使おう」（3年上 P34）

- （国語辞典の例）

□□□□一応

□□ 1. □ (意味) □完全ではないが一通りは。

□□ (例) □みんなの考えは一応そろった。

□□ 2. □ (意味) □やがて正式にするつもりだが。□□かりに。

□□ (例) □荷物は一応そこにおくよ。

□□□□一丸

□□ (意味) □ひとかたまり。□□一つにまとまること。

(例) □チームが一丸となって相手にぶつかる。

□□□□一群

□□ (意味) □□ひとかたまりのむれ。□□ひとむれ。

...

□□□□ (注)

□□ (意味) □ー□言葉の意味□□いくつかの意味がのっている場合もあります。

□□ (例) □ー□ことばの使い方□□みじかい文などといっしょにのっています。

□□ふつうの文字の国語辞典では、言葉は漢字での書き表し方もいっしょにのっています。

資料21 「漢字の広場 2年生で習った漢字②」 (3年上 P49)

□□□□□漢字の広場

□□□□ 2年生で習った漢字 (2)

□□動物園のようすを書いたお話に出てきたことばです。どんな動物がいますか。どんな物がありますか。どんな人が何をしていますか。くわしくする言葉を使って書きましょう。2年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

□□「なが」い□□「くび」

□□「たか」い□□「ふと」い□□「ほそ」い□□「つよ」い□□「よわ」い□□「おお」い□□「すく」ない□□「はんぶん」

□□「とり」□□「はね」□□「あたら」しい□□「ふる」い

□□「うし」□□「うま」□□「な」き「ごえ」□□「あたま」□□「かお」□□「うち」□□「そと」

□□「う」る□□「か」う

□□ (れい)

□□さくの「外」から手をのばして、女の子が、かわいい子「馬」の「頭」をなでています。

資料22 「漢字の広場 2年生で習った漢字③」 (3年上 P69)

□□□□□漢字の広場

□□□□ 2年生で習った漢字 (3)

□□時を表す言葉をあつめました。そのあとに続くことばと合わせて、その時々のお出来事をそうぞうして、文章を書きましょう。2年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

□□「はる」□ー□「かぜ」□□「なつ」□ー□「うみ」□□「あき」□ー□「こめ」□□「ふ

ゆ」□ー「ゆき」

□□せん「しゅう」□ー□「どくしょ」□□「こんしゅう」□ー□「とうぼん」□□「まいあさ」□

ー□「とうぼん」□□「らいしゅう」□ー□「えんそく」

□□せい「かつ」□□「あさ」□ー□「あか」るい□「ひかり」□□「ごぜん」□□「ひる」□□「ご
ご」□□「よる」□ー□「ほし」□□にっ「き」□□「おも」いだす

□□(れい)

□□「春」は、校庭のさくらがさきます。そよ「風」にふかれてたくさんのはなびらがまいます。

資料23 「漢字の広場 2年生で習った漢字④」 (3年下 P21)

□□□□□漢字の広場

□□□□2年生で習った漢字(4)

□□日曜日の家の中の様子です。だれがどんなことをしていますか。こそあど言葉もいくつか入れて、文
章を書きましょう。2年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

□□「はは」□□しゅうきんの□ひと□□ 1「まん」えん

□□「あに」□□「がようし」□□「え」□□「にんぎょう」□□「さい」のう

□□「ちち」□□「あね」□□「だい」どころ□□「と」だな□□「にく」□□「さと」いも

□□「おとうと」□□「しんゆう」□□「く」む□□「きいろ」い□ぼうし□□「おな」じ

□□おばあさん□□「きょうと」□□お「ちゃ」

□□「いもうと」□□にわ□□「なんかい」□□なわとび

□□おじいさん□□こ「がたな」□□「ふね」

□□(れい)

□□「母」が集金の人に「万」円をわたしています。『これで、おつりをください。』

資料24 「漢字の広場 2年生で習った漢字⑤」 (3年下 P42)

□□□□□漢字の広場

□□□□2年生で習った漢字(5)

□□家を出て、線路の方まで歩いていくと、次のようなようすです。それらのことばをつかって、文章に
書きましょう。2年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

□□ぼくの□「いえ」□□「もん」□□「しよてん」□□「きん」じよ

□□「ひろば」□□「こうえん」□□「こうばん」

□□「うおいちば」□□「どう」ろ□□「じ」どうしゃ

□□「のほら」□□やきゅうの□「てんすう」を□きそう

□□「てら」□□「せん」ろ□□「き」しゃ

□□「せいてん」□□「くも」

□□(れい)

□□「公園」にあるふんすい「広場」には、犬をつれたおんなの子がいます。

資料25 「漢字の広場 2年生で習った漢字⑥」 (3年下 P59)

□□□□□漢字の広場

□□□□2年生で習った漢字(6)

□□それぞれの教科でどんなことをしますか。そうぞうしたことも入れて、文章に書きましょう。2年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

□□「こく」ばん□□「じかん」わり□□にっ「ちよく」

□□「こくご」□ー□「はな」し「あ」う□□はっ「げん」□□「もう」ひつ

□□「しゃかい」□ー□「しんぶん」□□「かんが」える

□□「さんすう」□ー□「けいさん」□□「こた」える

□□「りか」□ー□「でんち」

□□「ずが□こうさく」□ー□「き」る□□えんの□「ちゅうしん」

□□「たい」いく□ー□サッカー

□□おん「がくしつ」□ー□「うた」う

□□(れい)

□□「国語」の「時間」に、学級文庫の名前を何にするかを「話」し「合」います。

資料26 「漢字の広場 3年生で習った漢字①」 (4年上 P29)

□□□□□漢字の広場

□□□□3年生で習った漢字①

□□次の言葉を使って、この町の住人になったつもりで、町やまわりの様子を紹介する文章を書きましよう。3年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

□□「ほうそうきょく」□□し「やくしょ」□□「もう」しこみ

□□「びょういん」□□「いしゃ」□□「くすり」

□□「ぎん」こう□□ぎょう「れつ」

□□おみせ□□「しょうひん」□□「ようふく」

□□「りょかん」

□□「はたけ」□□「のう」か □□やさいの□「やす」うり

□□「さか」□□「じん」じゃ

□□「ひつじ」

□□「みずうみ」□□せん「ろ」□□「えき」□□「てっきょう」□□「と」し

□□「みなと」□□「なみ」□□「しま」

□□(れい)

□□銀行のうらに、おいしいたいやきの店があります。いつも行列ができています。

資料27 「漢字の広場 3年生で習った漢字②」 (4年上 P43)

□□□□□漢字の広場

□□□□3年生で習った漢字②

□□第8回ふれあい祭りの会場には、たくさんの人が集まっています。次の言葉を使って、人々が「していること」を中心に、文章を書きましよう。3年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

□□「だい」8かい□□「まつ」り

□□きに□「のぼ」る□□きの「み」□□ひなを□「まも」る

はたを 「お」 こす うで むうで 「かつ」 「ま」 ける
 ダーツで 「あそ」 ぶ 「めいちゅう」
 「すみ」 びで やく
 「ぜんぶ」 「ひと」 しい こう 「へい」 「くば」 る ろうそくを 「け」 す
 ひろばの ちゅう 「おう」 りょうりを 「はこ」 ぶ
 のみものを 「そそ」 ぐ 「にが」 い
 トイレは 「し」 ようちゅう 「つぎ」 「ま」 つ
 「ゆう」 めいじん マイクを 「も」 つ
 さ 「ぎょう」 つくえを 「うご」 かす 「かる」 い 「おも」 い
 たい 「よう」 「あつ」 い
 (れい)
 木に登ろうとしている男の子がいます。その頭に木の実が落ちてきました。

資料28 「漢字の広場 3年生で習った漢字③」 (4年上 P69)

午後の学校の様子です。どこで、どんなことが行われていますか。次の言葉を使って想像したことも加えて、文章に書きましょう。3年生で習った漢字には、「」がつけてあります。

うんどうじょう やまだ 「くん」 「はや」 い 「たま」 「な」 げる 「ひろ」 う ひっ 「し」 「う」 つ 「あつ」 まる

かだん 「りよっか いいん」 はなを 「そだ」 てる 「かかり」 「しごと」
 そうじ よう 「ぐ」 「せい」 り

ほけんしつ 「はなぢ」 が での 「は」 が いたい

2かいの きょうしつ がっ 「きゅう」 こく 「ばん」 「よてい」 「そうだん」

としょかん 「きじつ」 「どうわ」 「かえす」 「せかい」 ちず じ 「ゆう」 けんきゅう

つうがくろ 「おう」 だん 「しん」 ごう 「たこうせい」

(れい)

2階には、4年生の教室があります。学「級」会を開いて、2学期の「予定」を「相談」しています。

資料29 「漢字の広場 3年生で習った漢字④」 (4年上 P86)

次の言葉を使って、二つの昔話を完成させましょう。3年生で習った漢字には、「」がつけてあります。

「おむすび ころりん」

むかしばなしの はじまりです。

おじいさんが、おむすびを 「お」とす

おじいさんが、おむすびを 「お」 う おむすびが 「ころ」 がる

おじいさんが、 「いそ」 ぐ 「すす」 む

おじいさん、あなが 「くら」 い 「ふか」 い

おじいさんが、 「の」 む 「さけ」 「さら」

ねずみが、お「れい」

うちでの こづち 「こうふく」

「うらしまたろう」

むかしばなしの 「はじ」 まりです。

こどもたちが かい「がん」で かめを いじめて いました。 「わる」い こどもたち かめは「かな」しい

うらしま たろうは かめを 「たす」ける こどもたちは 「さ」る

かめに 「の」る 「およ」ぐ 「うつく」しい 「きゅう」でん 「むかう」 「つ」く

「う」け「と」る たまたま「ばこ」

「あ」ける 「お」わり

□□ (れい)

□□昔話の「始」まりです。ある日、おじいさんは、お昼ごはんのおむすびを「落」としてしまいました。

資料30 「漢字の広場 3年生で習った漢字⑤」 (4年下 P29)

休日の様子です。次の言葉を使って、どこで、どんな人が、どんなことをしているかを、文章に書いてみましょう。3年生で習った漢字には、「 」がつけてあります。

「にわ」 □□いけの□「こおり」

しゃ「こ」 □□「やね」 □□「さむ」い □□しろい □□「いき」 □□はね □□「みじか」い □□ぼう

たくはいびん □□「にもつ」 □□「じゅうしょ」 □□きゅう「しゅう」

「はしら」 □□おんなのこ □□「しんちょう」

か「ぞく」 □□「りょうしん」

「かわ」むき □□「あじ」み □□「ゆ」 □□「あぶら」あげ □□「とう」ふ □□「なが」し

2 「かい」 □□お「きやくさま」 □□けっこん「しき」の□「しゃしん」

1 「ちょう」め □□「ま」がりかど

□□ (れい)

□□「庭」では、めがねをかけた男の子が、左足で池の「氷」をつついています。

資料31 「漢字の広場 3年生で習った漢字⑥」 (4年下 P55)

次の言葉を使って、学校や家での勉強について文章に書いてみましょう。3年生で習った漢字には「 」がつけてあります。

ほんの□「しゅ」じんこう □□「かんそう」 □□ぶん「しょう」 □□「し」 □□もう「ひつ」

かけっこ □□「ふえ」 □□ストップ □□ウオッチ □□「びょう」

「べんきょう」 □□「もんだい」 □□「めんせき」 □□2 「ばい」

「しょくぶつ」 □□「は」 □□「おんどけい」

「し」めい □□「い」けん □□「ほんたい」 □□「たすうけつ」

ち「く」 □□センター □□「けん」りつ □□としょ「かん」 □□「しら」べる □□「むかし」 □□

「しょうわ」

「はっぴょう」 □□「だいひょう」

「しゅくだい」 □□「かん」じ □□「れんしゅうちょう」

□□ (れい)

□□体育の時間に五十メートル走をした。記録は九秒で、今まででいちばん速く走れた。

資料32 「漢字の成り立ち」 (5年上 P20)

漢字は、今から三千年以上も前に、中国でできました。最初は、物の形や様子などを絵のようにえがいて表していましたが、それがだんだん変化して、今のような形になりました。また、それらの漢字を組み合わせることによって、新しい漢字が次々に作られました。

漢字の成り立ちには、大きく分けて、次の四つのものがあります。

1. 目に見える形がある物を、具体的にえがいたもの。

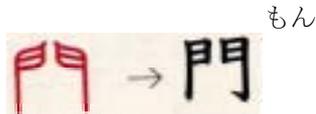
(例) 馬・山・門・火・手

うま

(点線文字)



(点線文字)



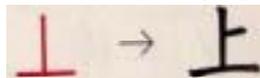
2. 目に見えない事からを、印や記号を使って表したもの。

(例) 上・本・三

上—基準になる線の上に印を付けた。

うえ

(点線文字)



本—木の根元の太い部分に印を付けた。

もとほん

(点線文字)



3. 漢字の意味を組み合わせたもの。

(例) 鳴く・信じる・動く

鳥 と 口 → 鳴く

4. 音を表す部分と意味を表す部分を組み合わせたもの。

意味を表す部分 音を表す部分 ふん こ こな

(点線文字)



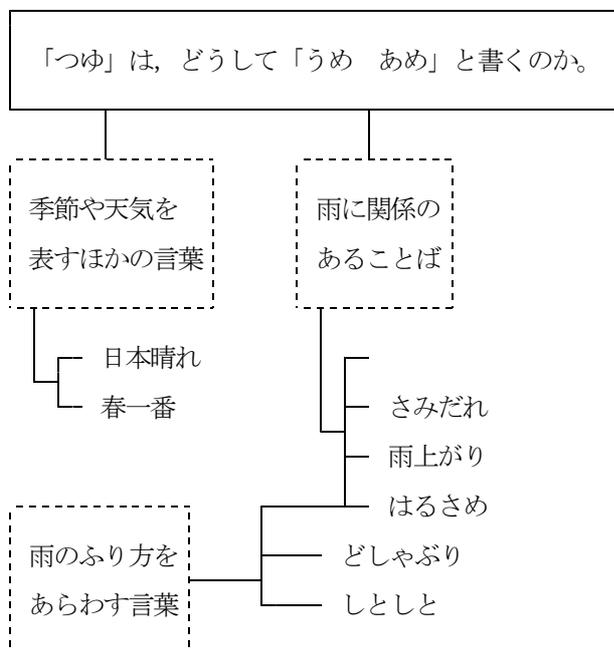
4. のような組み合わせでできた漢字が、いちばんたくさんあります。

次の「 」の漢字は、4. で説明しているように、音を表す部分と意味を表す部分を組み合わせてできています。

漢字の意味を辞典などでたしかめましょう。

1. 古い寺院のそばに、「銅」像が建った。
2. 身の回りを「清」潔にするよう、心がける。
3. 明後日の合唱コンクールのために、もっと練習しようと主「張」する。
4. 案内「板」の前の自転車を直ちに移動してください。
5. 許可を得て、「河」口の近くでつりをする。
6. ご「飯」を食べるのもわすれて、勉強に精を出す。

資料33 「言葉の研究レポート」(5年上 P39)



「朝顔」のように、様子や物の形、性質などからつけられた名前は、ほかにもあるのだろうか。

- カマキリ
- オンブバッタ
- オジギソウ
- カブトムシ

「急がば回れ」のような、口調のいい言葉には、ほかにもどんなものがあるか。

- 仏の顔も三度
- さるも木から落ちる
- 十人十色
- 百発百中

資料34 「仮名づかいの決まり」 (5年上 P44)

点字の仮名づかいの決まり

言葉を仮名で書くときの書き表し方を「仮名づかい」といいます。点字で書くときは、ふつうは発音どおりに書きます。ただし、次の場合には、決まった書き方があります。

1. のばす音を書く場合。

(1) ア段・イ段・エ段の音をのばす場合は、それぞれ「あ」「い」「え」をそえて書く。

お「かあ」さん 「まあ」まあ

「ちい」さい 「しい」たけ

「ねえ」さん

「ええ」わかりました。

(2) ウ段・オ段の音をのばすばあいは、「ㇿ」(長音符)をそえて書く。

「ふー」せん 「くー」き

お「とー」さん き「のー」 「おー」ふく 「どー」とく 「ぼー」えき 「ひょー」か

注1 次のような語は、オ段の仮名に「お」をそえて書く。これらは、言葉の数がかぎられている。

「おお」きい 「おお」い 「こお」り 「とお」か

注2 次のような語は、「エー」「テー」などのように、のばして発音されることもあり、「エイ」「テイ」などのように発音されることもある。どちらの場合も、エ段の仮名に「い」をそえて書く。

「えい」が 「けい」かく 「えい」よう 「かい」てい

2. 「言う」を仮名で書く場合。

「言う」は、「ユー」と発音することがある。その場合にも、「ゆう」と書かずに「いう」と書く。

「いう」までもない どう「いう」ふうに

3. 「ジ・ズ」の発音を書く場合。

ふつうは「じ・ず」と書く。

「じ」めん 「ち」ず

ただし、次の二つの場合は、「ぢ」「づ」と書きます。

(1) もともと「チ」「ツ」と発音する言葉の前に、ほかの言葉が付いて、発音が「ジ」「ズ」に変わる場合。

「はな」と「ち」で「はなぢ」

「て」と「つくり」で「てづくり」

(2) 「ちち」「つつ」のように、音が重なる場合。

ちぢみ ちぢむ ちぢれ

つつく つつみ つつる

4. 「オ」の発音を「を」と書く場合。

ぎんこーえ おかね「を」 あずけに いく。

ぶんまつにわ くてん「を」 うつ。

きそく「を」 まもる ことわ、 しゅーだん せいかつの きほんだ。

資料35 「漢字の広場 4年生で習った漢字①」 (5年上 P49)

□□□□□漢字の広場

□□□□4年生で習った漢字(1)

□□うめおばあちゃんになって、自分の生活やしゅみなどをしょうかいする文章を書きましょう。
4年生で習った漢字には「 」が付けてあります。

□□「し」めい□□「やまだ」□うめ□□きょうと「ふ」

○○「ぐん」□□いえの□「くら」□□いぬの□くび「わ」

「おっと」□□えん「げい」

□□みちの□りょう「がわ」には□さくら□□ばす「てい」

「と」ほ□□ふるい□「たて」もの□□「あい」けん□□

「さん」ぼ□□「はく」ぶつかん

□□「ひ」こう「き」に□のる

□□し「ぜん」□□ふう「けい」□□「な」のはなの□「きせつ」□□

「ぼく」じょうの□「しゅうい」に□「せい」りゅう

□□「とつ」きゅうで□○○えき

□□「がいとう」の□したに□せんえん「さつ」が□おちていた

けいさつ「かん」に□とどける□□「りょう」しん(よい□ころ)

□□(れい)

□□わたしは、毎日「夫」と二人で、「愛」犬の「散」歩に行きます。昨日は、「博」物館まで歩きました。

資料36 「漢字の広場 4年生で習った漢字②」 (5年上 P63)

□□□□□漢字のひろば

□□□□4年生で習った漢字(2)

□□放送係が運動会の様子を放送しているように、文章を書きましょう。今、目の前で起きているように伝える表現を工夫しましょう。4年生で習った漢字には「 」が付けてあります。

□□ぼすたーを□はり「つ」ける□□「あん」ないがかり□□「せつ」めい□する□□「さく」や
ぷろぐらむを□「いんさつ」□する□□「お」る

□□きばせん□□ごう「れい」□□「さんか」□する□□「あらそ」う□□「たたか」う□□

「わら」う □□「よろこ」ぶ□□まける□□「ざんねん」

□□「かん」きゃく「せき」□□「はた」を□ふる□□「れんしょう」□する□ことを□「ねが」う

そうがんきょうを□「か」りる□□「とく」てんぱん□□あか□234てん□□しろ□243てん

□□「てい」がくねん□□「な」く□□しょう「どく」□する□□「ほうたい」

□□(れい)

□□テントのところで、「低」学年の子が一人、ひどく「泣」いています。けがをしたのでしょうか。

資料37 「人ともとの付き合い方」 (5年上 P74)

□□□□感想などの例と課題の例

□□□□坂口

□□感想 — ふだん、何も考えずに物をすててしまっています。なんとかごみを減らす方法を考えたいと思いました。

□□課題 — 家や学校のごみを調べる。

- 1. 一週間分のごみの量と種類
- 2. 減らすための具体的なアイデア

□□□□相田

□□感想 — 四年生のとき、社会科でごみの学習をしたことを思い出しました。身の回りにあるもので、修理されたりしているものを知りたいと思いました。

□□課題 — 再利用への道ををさぐる。

リサイクルの実態を調べ、自分の家の使わなくなった物について、修理や再利用ができるかを考えてみる。

□□□□木村

□□感想 — 昔の暮らしについて、もっと具体的に知りたいと思いました。

□□課題 — 昔の暮らしを調べる。

お年寄りに、修理・再生していた物についてたずねる。

□□□□山田

□□感想 — 自分がすててしまった物は、どうやって自分のところまで来て、そして、ごみとしてどこに行くのか気になり始めました。

□□課題 — 物の来歴を調べる。

えんぴつなどの身近な物が、どこで作られ、どのようにして自分の手元まで来たのか調べる。

□□□□相田さんの聞き取りメモ

```

┌-----┐
□□□□発表  坂口さん
□□1.   調べたこと
家のごみ一週間分
多い物  —  入れ物  包み紙  →  とうふの入れ物
□□□□感想・意見など(自分の調査とくらべて)
.....
└-----┘

```

資料38 「漢字の広場 4年生で習った漢字③」 (5年上 P79)

□□□□□漢字の広場

□□□□4年生で習った漢字(3)

□□次の言葉を使って、あらすじを決め、短いお話を作りましょう。主人公は、どのように成長し、どんな冒険をするのでしょうか。4年生で習った漢字には「 」が付けてあります。

□□ゆめこ□□「じ」 どうかい□「ふく」 かいちょう□□「そつ」 ぎょう□□もく「ひょう」□□

「ひ」こう「し」□□「けっ」てん□□はん「せい」□□「あらた」める□□「せっきょくてき」
「ど」りょく

□□「ひ」こう「し」に□なる□□てん「こう」□□「ふ」あん□□「れいせい」□□しまで□
「きゅう」じょ

□□しまの□ひと□だい「す」き□□「なか」よし□□「きぼう」□□「きょう」りょく□□
く「ろう」□して□ふねづくり□□「しっぱい」□□「せいこう」□□しまの□ひとびとと□
「わか」れ

□□しゅっ「こう」（ふなで）□□「ゆう」き□□「しんねん」□□「ぶ」じ□□「えい」ゆう
「しゅく」ふく

□□（れい）

□□ゆめ子は、子どものころから活発で行動力のある女の子だった。小学生のときは、「児」童会
「副」会長をつとめた。

資料39 「和語・漢語・外来語」（5年上 P80）

□□□□□和語・漢語・外来語

□□1. 夏休みの帰省ラッシュで、高速道路や新幹線は相当な混雑が予想されます。

□□2. 夏休みをふるさとで過ごす人が多く、高速道路や新幹線はかなりこみ合うものと思われます。

□□同じ情報を伝えるにも、言葉の選び方や表現のしかたはいろいろあり、それによって受ける感じも
ちがってきます。

□□1. と2. では、どのように感じがちがいますか。話し合ってみましょう。

□□1. には、「帰省・相当・混雑・予想」など、漢字を「音」で読む言葉が使われています。これら
を「漢語」といいます。漢語は、古くに中国から日本に入った言葉です。また、日本で漢字を組み合わせ
て作った音読みの言葉もあります。漢語は、ふつう漢字で書き表しますが、「にく」のように、仮名で書
いてあっても、「音読み」の言葉は漢語です。

□□2. には、「ふるさと・過ごす・人・多い・かなり」など、もともと日本語にあった言葉が使われて
います。これらを「和語」といいます。「ひと」のように、漢字で書いてあっても、「訓読み」の言葉は
和語です。

□□また、1. には「ラッシュ」という言葉が使われています。このような言葉を「外来語」といいます。
外来語の多くは、近代になってから、日本とアメリカ・ヨーロッパなどとの交わりが深くなり、それにと
もなって入ってきた言葉です。外来語は、ふつう片仮名で書き表します。外来語には、日本人が発音しや
すいように変形されるなど、元の外国語とはちがうものが少なくありません。また、省略したり組み合わ
せたりして、日本で作られたものもあります。

□□テレビジョン（英語）→ テレビ

□□テーマ（ドイツ語）とソング（英語）→ テーマソング

□□次の文中の「 」の言葉は、漢語と和語とで意味がどうちがうでしょうか。また、文中からほかの
漢語や外来語をさがしましょう。

1. 水辺の「せいぶつ」についての「本」を出版する。

「なまもの」ですから早くめしあがってください。

2. 「いろがみ」で学習発表会の招待状を作る。
「しきし」にサインをしてもらおう。
3. コンサートの「しよにち」だ。
山上で「はつひ」をおがむ。
4. 「ふうしゃ」ごやがある美しい景色をえがく。
妹に「かざぐるま」を貸す。

資料40 「漢字の広場 4年生で習った漢字④」 5年下 P27

□□□□□漢字の広場

□□□□4年生で習った漢字(4)

□□各教科での学習や学校生活について、学級日誌に記録するように、文章を書きましょう。4年生で習った漢字には、「」をつけてあります。

□□こくご□□かんじ□「じてん」□□おん「くん」□□よう「れい」

□□しゃかい□□「はたら」く□□「ぎょ」ぎょう□□「さん」ぎょう□□「きかい」□□こうぎょう□□

たい「りょう」□□せい「さん」□□「つた」える□□にほん□「かく」ち□□き「しょう」□□

「れきし」□□20せい「き」

□□さんすう□□「おぼ」える□□「たんい」□□「ちょう」□□「おく」□□めん「せき」□□

「ていへん」□□ちよっ「けい」

□□りか□□じっ「けん」□□ほう「ほう」□□「しけんかん」□□「こ」たい□□「へん」か□□

でんきの□□せつ「ぞく」□□「かんさつ」□□よう「みやく」□□「め」□□「たね」

□□「きゅう」しよく

□□おんがく□□がっ「しょう」□□がっ「き」

□□(例)

□□図書室で、20世「紀」の「歴史」について書かれた本を読みました。

資料41 「漢字の広場 4年生で習った漢字⑤」 5年下 P45

□□□□□漢字の広場

□□□□4年生で習った漢字(5)

□□だれが、どこで、何をしていますか。人物の様子や気持ちが分かる言葉も入れて、文章に書きましょう。4年生で習った漢字には「」をつけてあります。

□□ちゃのま□□「しょう」めい□□おばあさん□□こう「こく」□□ひゃっ「か」てん□□

ねん「まつ」□□おおうりだし□□「まご」□□「へいたい」□□にんぎょう□□おかあさん□□

ご「はん」□□「うめ」ぼし□□「しお」□□「あさ」づけ□□おとうさん□□「や」きざかな□□

「けんこう」□□「えいよう」□「まん」てん□□「いちよう」やく

□□2かいの□へや□□おねえさん□□「いるい」□□しゅっ「び」□□「ちよ」きんばこ□□

おにいさん□□とんで□いる□むし□□「さっ」ちゅうざい

□□となりの□いえの□だいどころ□□「ざいりょう」□□こむぎ「こ」□□ケーキ「がた」□□

オープン□□「かねつ」

□□「よく」しつ□□「かがみ」□□おじいさん

□□にわ□□「まつ」の□ぼんさい□□おんなのこ□□「す」ばこ□□「ぐん」て□□
ゆうびん□□はい「たつ」

□□ (例)

□□茶の間にいるおばあさんは、「孫」が喜びそうなものはあるかしらと思いながら、百「貨」店の年
「末」大売り出しの広「告」を見えています。

資料42 「漢字の読み方と使い方」 5年下 P48～P49

一つの漢字にいろいろな音

1. 人「間」にとって時「間」は大切な財産である。
2. 兄は米国に「留」学中で、しばらく「留」守だ。
3. 祖父が学んだ「読」本を借り、音「読」してみた。
4. 迷惑をかけた相手に「直」接会って、正「直」に謝罪する。

1. から4. の「 」はそれぞれ同じ漢字です。このように漢字には複数の音を持つものがあります。

知っている漢字でも、言葉によって読み方が変わる場合があります。言葉による読み方のちがいを辞典などで確かめましょう。

次の「 」の部分も同じ漢字です。

- (1) 本「みょう」 □□「めい」 案□□「めい」 人□□大「みょう」
- (2) 「ごう」同 □□「かつ」 戦□□「ごう」 意□□「がっ」 宿
- (3) 「こう」 作 □□「く」 夫□□大「く」 □□木「こう」
- (4) 「げ」 校 □□地「か」 □□「げ」 山□□以「か」
- (5) 音「がく」 □□「がっ」 器□□気「らく」 □□「らく」 園
- (6) 無「ごん」 □□発「げん」 □□「げん」 語□□伝「ごん」

(吹き出し削除)

特別な読み方をする言葉

漢数字の「しち」に「たな」、夕方の「ゆう」に「ばた」という読みはありません。それなのに漢数字の「しち」と夕方の「ゆう」を書いて、「たなばた」と読むのはなぜでしょう。古く、中国語では七月七日の夜を漢数字の「しち」と夕方の「ゆう」を書いて「しちせき」と表していました。日本語の「たなばた」にこの漢字二字を当てたところから、特別な読み方が生まれたのです。

このように二字以上の漢字が結び付いた言葉の中には、全体をひとまとめにして、特別な読み方をするものがあります。

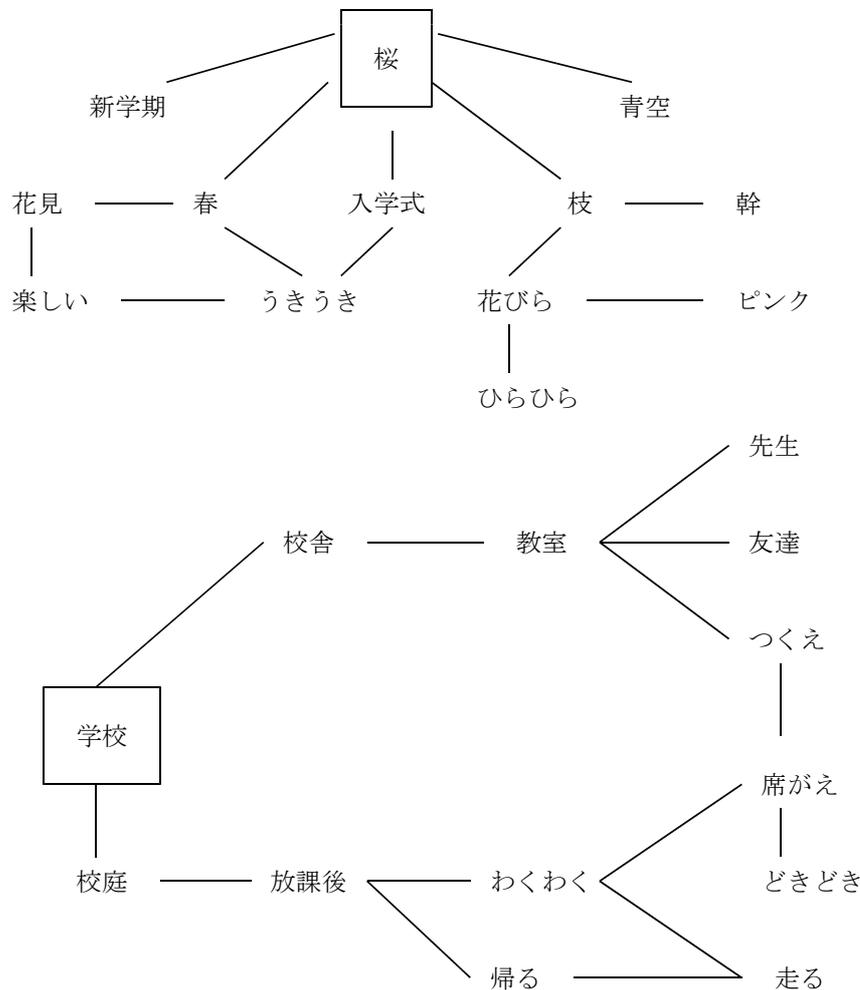
これまでに習った、「きょう」「あす」「じょうず」「ついたち」なども、特別な読み方です。ほかに、次のようなものがあります。

1. 「ふたり」の友情は永久に変わらない。
2. 岩のすき間に「しみず」がわいている。
3. 「かわら」で弁当を食べた。
4. 「きのう」、サッカーの観戦券を買いに行った。
5. この「やおや」は元日から営業している。
6. 妻と一緒に「くだもの」を食べる。

7. 婦人服売り場で、弟が「まいご」になった。

8. 一月「はつか」が父の誕生日だ。

資料43 「図の修正」 5年下 P56



資料44 「削除した挿絵の説明」 5年下 P66

- 1. つくえでノートに書いている相田さんに、山田さんが話しかける。「えんぴつ貸して。」
- 2. トレーにのせた給食を運ぶ相田さんと山田さん。ひじがぶつかり、相田さんがあやまる。「あっ、ごめん。」
- 3. 大リーグニュースという本を読む相田さんに、山田さんが声をかける。「ききたいことがあるんだけど。」

資料45 「漢字の広場 4年生で習った漢字⑥」 5年下 P69

□□□□□漢字の広場

□□□□4年生で習った漢字(6)

□□今日一日の出来事を伝える新聞記事を書きましょう。「いつ」「どこで」「だれが」など、必要な事柄を考えましょう。4年生で習った漢字には「 」をつけてあります。

□□こっかい□「ぎ」じ「どう」□□だい「じん」□□せい「じ」か□□「せんきょ」□□

とう「ひょう」□□「み」らい□□「か」だい□□りっこうほ□□「やくそく」□□
 ほう「ち」□じてんしゃ□□こう「がい」□□こく「みん」□□「かん」しん□□「ようきゅう」
 こう「きょう」□しせつ□□「ひつよう」□□「べんり」□□「ろう」じん
 □□ロボットの□「かんせい」□□コンテスト□□じゅ「しょう」しき□□「し」かいしゃ
 □□「りく」じょう□「きょう」ぎ□□はしり□たかとび□□「はつ」しゅつじょう□□「けっか」□□
 2メートル□「い」じょう□□「さい」こう□き「ろく」□□たい「さ」□□「じゅんい」
 □□(例)
 □□今日の午後、国会「議」事「堂」で大「臣」が演説をしました。

資料46 「同じ読み方の熟語」 5年下 P70～71

次の「 」の部分は、同じ音でもそれぞれちがう漢字を使います。

1. 一週「間」前に発売された週「刊」誌。
2. 公「園」で、人形げきの公「演」を見た。

漢字には「1.」の「かん」と「2.」の「えん」ように、同じ音でも意味のちがうものがあります。

そのため、漢字が組み合わせられてできる熟語にも、同じ音で意味のちがうものがあります。

次の文の「 」の部分は、同じ音でもちがう漢字を使います。

1. 先「生」のチームが先「制」点を取った。
2. 「酸性」雨を防ごうという意見に「賛成」する。
3. こん虫「採集」に夢中になって、「最終」バスに乗りおくれた。
4. 「先頭」に立って「銭湯」に行く。
5. 「暴」風に備えて「防」風林を作った。
6. かれの「功績」は、新しい「鉱石」を発見したことだ。
7. 強い「意志」をもって、「医師」の資格を取った。
8. 「照」明がつけばなしだったことを「証」明する。

ほかにも、同じ音で意味の違う熟語を集めたり、それを使った文を考えたりしましょう。

資料47 「学習計画例」 5年下 P73

□□□□学習計画例

□□□□□□大造じいさんとガン

□□□□目標

□□作品のよいところを自分なりにつかみ、みんなに、「なるほど」と思ってもらえるように話す。

□□□□方法

□□資料を見せながらスピーチをする。

□□□□計画（8時間）

□□1～2時間 □—□心に残る表現、気になるところをぬき出しながら読む。□□カードに書き出す。□□分類する。

.....
□□6時間□—□中間発表
.....

資料48 漢字の形と音・意味 6上 P22-P23

□□□□□漢字の形と音・意味□□ (言葉)

□□□□同じ部分で同じ音

□□1. 我々の要「きゅう」が認められる。

□□2. 野「きゅう」シーズンが開幕する。

□□3. 「きゅう」急車が高速道路を走る。

よう「きゅう」 や「きゅう」 きゅう「きゅう」

求 球 救

□□松木□□「1. 2. 3.の「 」の付いた言葉には、どれも[きゅう] (第2カギ 563~623) という音がはいっているね。」

□□福島□□「要求の『きゅう』の部分が共通しているよ。」

このように、同じ部分を持つ漢字は、形ばかりでなく音も共通する場合があります。

次の各文の「 」の中の言葉に当てはまる漢字を、後の漢字から選びましょう。どの部分が共通で、どんな読み方でしょうか。

□□□□1.

□□一日の気温の変「か」を調べる。

郵便局のそばの桜が開「か」した。

蒸気機関車が「か」物列車を引っ張る。

か(か) か(はな) か(ば__ける) (※__は、送りがなであることを示す)

貨 花 化

□□□□2.

□□「せい」潔な洗面所で顔を洗う。

リーダーには、冷「せい」さが必要だ。

スポーツは健全な「せい」神を育てる。

「せい」天なので洗たく物を干す。

せい せい(しず__か) せい(は__れる) せい(きよ__い)

精 静 晴 清

□□□□3.

□□乳児の体重を「そく」定する。

規「そく」正しい生活をする。

箱の「そく」面に色紙をはる。

そく そく (はか_る) そく (かわ)

則 測 側

□□□□同じ部分と意味

同じ部分をもつ漢字は、意味のうえでつながりがあります。

□□1. ぎょうにんべん□—□「行く」「道」などの意味を表す漢字に使われる。

□□お城と自宅を、「と」歩で「おうふく」した。

□□係の人の指示に「したが」って、裁判所を見学する。

□□「ま」ち合わせ時間の30分「ご」に着いた。

ぎょうにんべん と おう ふく じゅう (したが_う) じ (ま_つ) ご (あと)

イ 徒 往 復 從 待 後

2. にくづき□—□元は「肉」で、体に関係のある漢字に使われる。

のう しん ぞう はい い ちょう

脳 心臓 肺 胃 腸

第1巻で学習する漢字を中心に、次の部分の表す意味を考えてみましょう。

うかんむり てへん りっしんべん りっとう

𠂇 扌 小 冫

資料49 「漢字の広場 5年生で習った漢字①」 P32

(課題文を次のように修正し、提示されている漢字に加えて適宜図版に示された状況が分かるような補足的な言葉を加えた。以下の同様の教材においても同様の処理を行うものとする。)

□□町のあちこちで、いろいろな出来事が起きています。次の言葉を使って、新聞記事のように、出来事を伝える文章を書きましょう。5年生で習った漢字には、「 」がつけてあります。

しん「かん」せんのえき

〇〇けんの□けん「きょう」□□じ「こ」□□げん「いん」□□うん「が」□□「おり」もの□こうじょう□□「ぎじゅつ」□□もく「ぞう」の□おてら□□ぶんか「ざい」□□「ぼ」ち□□「ふっきゅう」□こうじ□□「ぼうさい」□くんれん□□「せん」とう□□かい「ちく」□□おお「ぜい」□□「こんざつ」□□「だん」ち□□にゆう「きよ」

きけんぶつ□おきば□□「きそく」□□たちいり□「きん」し

こうえん □□「りやく」ず□□「せつ」ち□□きの□「い」しょく□□「ひ」りょう□□「どうぞう」

□□(例)

□□県「きょう」付近で自転車どうしの事「こ」があった。原「いん」は、運転者が、どちらも運「が」の船を見ていたためと分かった。

資料50 目次 6上 P40

□□□□目次	
□□博物館について	2
□□利用案内	3
→ 場所・学校からの行き方	
→ 開館時間・入場料・休館日	
□□博物館の展示内容	
→ 博物館全体の見取り図	4
→ 歴史博物館の見どころ	5
□□わたしたちのおすすめ	
→ 野外施設「大塚・歳勝土遺跡公園」	6

□□「利用案内」は、1ページにまとめて書いた。

□□「歴史博物館の見どころ」は、特にすすめたいところを、2か所取り上げた。

□□「わたしたちのおすすめ」は、野外施設の公園もふくめて場所を選び、地図と写真などでしようかいした。

□□福島□□「どんな工夫をしたら、わたしたちらしいガイドブックになるかな。」

資料51 歴史博物館の見どころ 6上 P41

□□□□□歴史博物館の見どころ	
□□□□歴史劇場	
□□常設展示室に入って、すぐ左のところにあります。表情豊かな…	
□□*（第1星印）ひとロードバイス□□上映時間が決まっているので、あらかじめ確かめてから、ほかの展示室を回るといいよ。	
□□□□体験学習室	
□□銅鐸を鳴らしたり、火打ち石で火をおこしたりと、直接歴史を体験できるコーナーです。縄文人になって…	
□□*ひとロードバイス□□まが玉作り、たこ作りなどの教室も開かれます。	

□□パンフレットの内容や写真、録音などを参考に、楽しく分かりやすい紙面にした。

□□「ひとロードバイス」では、これから行く人が知っていると思える情報を示した。

資料52 野外施設「大塚・歳勝土遺跡公園」 6上 P42

※点図を作成し、要所要所に数字（1～8）を入れ、下記のように解説を付ける。

□□1 林間広場□—□アスレチックがあります。	
-------------------------	--

- 2 草地広場□—□お弁当を食べるのにぴったりの場所。虫とりもできます。
- 3 旧長沢家住宅□—□江戸時代の家です。
- 4 体験広場□—□広くて、お弁当を食べたり、スポーツをしたりできます。
- 5 歳勝土遺跡□—□大塚の集落に住んでいた人たちのお墓のあと。
- 6 上り坂がけっこう大変。もう一つの道のほうが楽です。
- 7 大塚遺跡□—□弥生時代の集落のあと。木のさくと、環濠というほりに囲まれています。
- 8 歴史博物館の屋上とつながっています。

□□□□わたしたちのおすすめ

- 第1位 大塚遺跡□—□たて穴住居がたくさんあって、タイムスリップしてみたいです。
- 第2位 旧長沢家住宅□—□くつをぬいで、ざしきに上がることもできます。
- 第3位 林間広場□—□博物館で頭を使ったら、ここで体を動かすと気持ちがいいですよ。

!-----!

□□全体の中のどこにあるかが分かるように、地図を中心に置き、説明を書いた。

□□歴史についてよく知らない人でも分かるように、簡単な説明をのせた。

資料53 「漢字の広場」 5年生で習った漢字② 6上 P45

次の言葉を使って、キャンプ場での人々の行動を考えて文章を書きましょう。友達が書いたものを読んで、上手だなと思う文を見つけましょう。5年生で習った漢字には、「 」がつけてあります。

「けわ」しい やまみち たん「どく」 「ひき」いる 「あつぎ」 「ひじょう」しょく 「さき」える

こうげん□□「かいてき」□□きの□「えだ」□□「やぶ」れる□□テントを□「は」る□

「と」める□□じゅん「じょ」□し「じ」

しょくじが□「あま」る□□「か」す□□「も」える□□「まね」く□□「へ」る□□「ふ」える□□

「むら」がる□□にっ「てい」

キノコを□「と」る□□「くら」べる□□「おうふく」□□スズメバチが□「あらわ」れる□□

ゆ「だん」□たい「てき」

□□(例)

□□もっとも「けわ」しい道すじを選んで、単「どく」で山登りにいんどんでいる人がいます。

資料54 討論会の進め方 6上 P47

□□□□(討論会の進め方)

□□□□初めの主張

□□(肯定グループ) □□まんがを置くことに賛成です。理由はふたつあります。ひとつは、まんがを置けば楽しい学級文庫になって…

□□(否定グループ) □□まんがを置くことに反対です。学級文庫は、家ではなかなか読まない本を読む場にしたいほうがよいと…

□□↓(下向き矢印) □討論を聞くグループは、どんな質問をするか相談する。

□□□□質問とその答え

□□（肯定グループへの質問）□□学級文庫の役割を考えると、楽しいだけのまんがはよくないと思いますが…

□□（肯定グループの答え）□□まんがには、たとえばここに持ってきたもののように…

□□（否定グループへの質問）□□なぜ、まんがばかり読むとよくないのですか。

□□（否定グループの答え）□□ぼく自身、まんがはいくらでも読めますが、字ばかりの…

□□↓□肯定グループと否定グループは、最後にどんな主張をするか相談する。

□□□□最後の主張

□□（肯定グループ）□□学級文庫にまんがを置くことに賛成です。ふさわしいまんがを選んで置くようにすれば…

□□（否定グループ）□□学級文庫にまんがを置くことに反対です。たとえ学習に役立つものだとしても…

□□↓□討論を聞くグループは、まとめるための相談をする。

□□（討論を聞くグループのまとめ）

□□学級文庫にまんがを置くことに賛成します。

□□肯定グループの人が見せてくれたような…

…利用者を増やすのに効果があると思います。…

□□□□□討論会シート

名前□□中村幸太

□□□□「学級文庫にまんがを置くのはよいか。」

□□□□自分の考え

□□（肯定）□—□まんがはおもしろい。…

□□（否定）□—□まんがは家で読める。まんがの表紙は薄いので、たくさんの人が読んで…

□□□□討論会での意見

□□（肯定）□—□まんがをきっかけにして、ほかの本も読むようになる。まんがには歴史や伝記をあつかったものなどがある。

□□（否定）□—□学級文庫は、家でなかなか読まない本を置く場に。ほかの本を読まなくなる。…

□□□□討論会での疑問点

□□みんなの目指す学級文庫はどちらか。

1 楽しくて、利用者が多い。

2 家ではなかなか読まない本を読む。

□□□□討論会での「なるほど」

□□まんがばかり読んでいると、ほかの本を読まなくなる。

資料55 「漢字の広場」 5年生で習った漢字③ 6上 P69

次の言葉を使って、作家になったつもりで、探偵物語を書いてみましょう。5年生で習った漢字には、「 」がつけてあります。

「まず」しい□□おやこ□□こねこ□□「まよ」う□□じ「けん」□□「しつ」もん□□「きょう」み□□「かのうせい」

「か」せつ□□すい「そく」□□「けんしょう」□□「に」がおえ□□「じょうほう」□□「にんむ」□□ちょう「さ」□□「せい」りよくてき□□いっしん□□「たい」□□「げん」かい□□「せきにん」かん□□「さい」かい□□「たし」かめる□□「しき」べつ□□「ほご」
「かい」かん□□かん「しゃ」

□□ (例)

□□あるところに「まず」しいねこの親子がいた。ある日、子ねこがどこかで「まよ」ったのか、いなくなってしまう。

資料56 同じ訓をもつ漢字 6上 P72-P73

□□あつ__い (ねつ) お茶

□□あつ__い (こう) 辞書

□□あつ__い (しょ) 夏

□□これらの (あつ__い) は訓では同じ読み方ですが、音では「ねつ」「こう」「しょ」と、それぞれ異なる漢字で、意味や使い方がちがいます。前後の関係から、どの漢字を使うのが適切かを判断しましょう。

□□次の () をつけた漢字の意味の違いを考えましょう。

□□□□1.

□□机を教室のすみに (うつ__す)。□「い」

穀物を倉庫に (うつ__す)。□「い」

校舎を背景に写真を (うつ__す)。□「しゃ」

□□□□2.

□□延長戦でおしくも (やぶ__れる)。□「はい」

一位になるという夢が (やぶ__れる)。□「は」

張ったばかりの障子が (やぶ__れる)。□「は」

□□□□3.

□□警官が宝石どろぼうを (お__う)。□「つい」

重大な責任を (お__う)。□「ふ」

うちわで虫を (お__う)。□「つい」

□□□□4.

□□地藏に花を (そな__える)。□「きょう」

車の故障に (そな__える)。□「び」

台風の暴風雨に (そな__える)。□「び」

□□□□5.

□□体操競技で好成績を (おさ__める)。□「しゅうにゅう」の「しゅう」

問屋に商品を (おさ__める)。□「のう」

大学で学問を (おさ__める)。□「しゅうがくりょこう」の「しゅう」

王が国を (おさ__める)。□「ち」

□□□□6.

□□方位磁石が北を（さ__す）。□「し」
大雨の後、日が（さ__す）。□「さ」
武士がこしに刀を（さ__す）。□「さ」

□□□□7.

□□千代紙でつるを（お__る）。□「せつ」
綿糸で布を（お__る）。□「しょく」
木の枝を（お__る）。□「せつ」

□□□□8.

□□聖火リレーの熱気が（さ__める）。□「れい」
スープが（さ__める）。□「れい」
朝日を浴びて目が（さ__める）。□「かく」

資料57 「漢字の広場」 5年生で習った漢字④ 6上 P84

次の言葉を使って、家の人に、学校での学習や活動を伝える文章を書きましょう。5年生で習った漢字には、「 」がつけてあります。

がっきゅうかい 「てい」 あん 「さん」 せい 「か」 はんすう

こくご□□「ふく」 ごうご□□はい「く」

ずこう□□はんが

しゃかい□□「せい」 じか□□「ぎむ」 □□「ぜい」 きん□□「そう」 り□だいじん□□

「き」 ほんてき□じんけん□「し」 げん□□「こう」 ぶつ□□「りょう」 ど□□こく「さい」 □□

「ゆしゅつ」 □□「ぼうえき」 □□「じょう」 やく□□「ぶ」 し□□「とう」 いつ□□のう「こう」

どう「とく」 □□「の」 べる

りか□□でんき□かいの□「どう」 せん□□きん「ぞく」 □□「えき」 たい□□「さんそ」

□□（例）

□□学級会で、音楽会での出し物について話し合った。森下さんの「てい」案に、「か」半数の人が「さん」成した。

資料58 日本で使う文字 6上 P85-87

□□□□仮名の由来

日本には、もともと文字がありませんでした。それで、わたしたちの祖先は、やまと言葉（和語）を書き表すために、中国から伝わった漢字を利用する方法を考え出しました。

漢字は、形・おん・意味を持っています。

□□（形）	波	布
□□（音）	は	ふ
□□（意味）	なみ	ぬの

「は」，「ふ」というおんは、中国での発音に由来します。仮名がない時代には、日本語の発音を漢字で書き表すために、意味とは関係なく、漢字のおんだけが利用されていました。

□□はる：（第1小見出し符）「なみ」□□「と__める」

□□なつ：「なら」の「な」□□「みやこ」

□□あき：「やす__い」□□「きち」

□□ふゆ：「ぬの」□□「りゆう」の「ゆう」

このような使い方の漢字を、「万葉仮名」といいます。

平安時代になると、漢字をもとにして平仮名・片仮名が作られました。

平仮名は、万葉仮名をくずして書くところから生まれました。

いっぽう、片仮名の多くは、万葉仮名の形の一部を取って書くところから生まれました。

□□□□平仮名の成り立ち

点字	漢字	平仮名
あ	安	あ
い	以	い
な	奈	な
ほ	保	ほ

□□□□片仮名の成り立ち

点字	漢字	片仮名
あ	阿	ア
い	伊	イ
な	奈	ナ
ほ	保	ホ

漢字は、1字1字が意味を表す文字です。このような文字を表意文字といいます。これに対して、仮名（平仮名・片仮名）や点字は、意味を表さずに音だけを表す文字です。これを表音文字といいます。

現在、日本語の文章を書き表すときには、ふつう、漢字と仮名を交ぜて使います。表意文字の漢字と、平仮名・片仮名を適切に交ぜて書き表すことで、読む人は、速く、正確に意味を読み取ることができるのです。

普通の文字は、「わたしわ」は「わたしは」と書き表します。また、マスあけのきまりが無いいため、表音文字の仮名だけで書き表した文は読みにくく、また、意味を取り違えて混乱することもあります。そこで、次の〈 〉（第1指示符）で示した部分を漢字で書き表します。

□□はははははじょうぶだ。

→ 〈はは〉は〈は〉はじょうぶだ。(※マスあけせずに続けて表記する。)

→ 〈はは〉わ□〈は〉わ□じょうぶだ。(※マスあけし、正規の点字表記で表記する。)

つぎの文の「 」のついている言葉は、漢字で表されています。読んでみましょう。

□□1. 「父」の「誕生日」に「絹」のネクタイをおくります。

□□2. 「装備」をしっかりととのえて「山頂」を「目指」す。

□□3. この「資料」を、「班」ごとに「回覧」してください。

□□□□ローマ字とのかかわり

中国から伝わった漢字、漢字から生まれた平仮名と片仮名に加えて、現在の日本では、ローマ字も使われています。…(以下略)

(脚注)

□□「ゐ」□「ゑ」□一□古代には、ア行の「い□え」とワ行の「ゐ□ゑ」の発音が区別されていたため、それに対応する仮名があった。

(※平仮名の起こり・片仮名の起こりの表は、削除。)

資料59 手紙の形式 6上 P114

□□□□普通文字(縦書き)の手紙の形式

□□1. 初めのあいさつ：(第1小見出し符) 季節の

あいさつ・安否のあいさつ

□□2. 本文：用件・いちばん伝えたいこと

□□3. 結びのあいさつ

□□□□4. 日付

□□□□□□□□□□□□5. 自分の名前

4. 相手の名前

□□□□普通文字(横書き)の手紙の形式)

□□□□□□□□□□□□□□□□1. 日付

2. 相手の名前

□□□□□□□□□□□□□□3. 自分の名前

□□(縦書きの1. 2. 3.と同じ。)

□□*(第1星印)横書きの場合、「3. 自分の名前」を本文の後に記すこともあります。

□□□□点字の手紙の形式

┌──┐

1. 相手の名前

2. 日付

□□3. 自分の名前

□□（普通の文字の横書きと同じ。）

└──┘

□□手紙を書くときには、相手に応じてふさわしい言葉づかいをし…

資料60 熟語の成り立ち 6下 P28-P29

□□□□□熟語の成り立ち□□（言葉）

□□□□漢字2字の熟語

□□2字の漢字からできている熟語の成り立ちには、次のようなものがあります。

□□1. 意味が対になる漢字の組み合わせ

□□てんち（てん・ち） □□売買 □□善悪

□□2. 似た意味の漢字の組み合わせ

□□ほうふ（ゆたか・とむ） □□価値 □□仁愛

□□3. 前の漢字があとの漢字を修飾する関係にある組み合わせ

□□ごじ（あやまった じ） □□幼虫 □□温泉

□□4. 「…を」「…に」に当たる意味の漢字があとに来る組み合わせ

□□せんがん（かおを あらう） □□登山 □□養蚕

□□次の熟語は、上の1.から4.のどれに当たるでしょうか。辞典などを使って意味を調べ、考えましょう。

□□忠誠 □□納税 □□海底 □□異変 □□帰国 □□開閉

□□□□漢字3字の熟語

□□3字の漢字で成り立つ熟語の多くは、1字の語と2字の語とでできています。

□□1. 2字の語の頭に1字を加えた語

□□(1) 前の語が後の語の性質・状態などを限定するもの

□□だいしきゅう □□ていがくねん □□しんきろく

□□(2) 前の語が後の語を打ち消すもの

□□むせいげん □□ひこうかい □□ひじょうしき

□□2. 2字の語の後ろに1字を加えた語

□□(1) 前の語が後の語を修飾して、物事の名前になるもの

□□ぎんがけい □□ゆうびんきょく □□けいさつしょ □□いちらんひょう

□□(2) 前の語に後の語が意味を添えて、様子や状態を表すもの

□□的 □□「…のような」「…のような性質を持つ」という意味をそえる。

□□利己的 □□典型的 □□批判的

□□化 □□「…のようになる」という意味をそえる。

温暖化 近代化 自動化
 3. 一字の集まりから成る熟語
 市町村 松竹梅 衣食住

漢字4字以上の熟語
 4字以上の熟語も、ふつうはいくつかの語から成り立っています。
 1. 1字の語の集まりから成る熟語
 春夏秋冬 都道府県 東西南北
 2. いくつかの語の集まりから成る熟語
 臨時列車 (臨時・列車)
 宇宙飛行士 (宇宙・飛行・士)

知っている熟語をつなげて、漢字4字以上の長い熟語を作ってみましょう。
 学区内歩道緑化運動
 勉強方法改善児童委員会委員長

資料61 「漢字の広場」 5年生で習った漢字⑤ 6下 P31

次の言葉を使って、商店街の通りやお店の中の様子を、文章に書きましょう。会話を想像して書き、その効果を考えましょう。5年生で習った漢字には、「」がつけてあります。

こめや 「たわら」 「しょう」ち
めがねや 「そ」ふ ろう「がん」きょう 「おう」たい 「たい」ど
べんとうや 「べん」とう 「ひょうばん」 2「こ」 り「えき」 「えい」せい
スーパー はん「がく」 「かかく」 「ほうふ」 100えん 「きん」いつ
えいがかん にゅうじょう「けん」 やつきよく 「き」きめ 「せつ」きゃく
せとものや 「そん」がい
ようひんてん 「めん」 「ぬの」じ び「よう」いん せい「けつ」
ぎんこう 「よ」きん 「はんざい」 「ぼう」し
がいろ 「き」ふ ねん「がじょう」 ゆう「かん」 ふう「ふ」 「つま」
「した」で アイスを なめる
 (例) 米10キロ配達ですね、「しょう」知しました。
 米屋のおじさんは、元気な声でそう言いました。

資料62 「漢字の広場」 5年生で習った漢字⑥ 6下 P47

どんなとき、どんなことがあったか、そのとき、どんな気持ちだったか。次の言葉から想像し、文章に書いてみましょう。5年生で習った漢字には、「」がつけてあります。

にゅうがくしき こう「しゃ」 「さくら」
つうがくろ しゅう「かん」
「じゅ」ぎょう せい「せき」 「おんし」
ぶんしゅう 「こう」せい 「へん」しゅう 「せい」ほん

うんどうかい□□「あつ」しょう□□「だん」けつ
 がくしゅう□はっぴょうかい□□「じゅんぴ」□□「せい」さく□□うん「えい」□□ねつ「えん」
 「けい」けん□□てつぼう□□「さか」あがり
 しいく□□「か」う
 ともだち□□「ぼう」げん□□「ぜつ」こう□□「ゆる」す□□ゆう「じょう」□□「えいきゅう」
 「しゅう」がく□りょこう□□「しょく」にん□□「ぶつぞう」
 そつぎょうしき□□「こう」どう□□「ざい」こうせい□□そつぎょう□「しょう」しょ□□
 「ゆめ」□□たい「し」

□□(例)

□□今日はいよいよ卒業式です。6年前の入学式の日、校「しゃ」の周りの「さくら」が満開で、とてもきれいでした。

資料63 カンジー博士の漢字クイズ大会 6下 P66-P67

スタート 「 」を付けた部分が違うものはどれか。

1. む「ごん」
2. おう「ごん」
3. でん「ごん」

1 「 」を付けた言葉の中で、意味が違うのはどれか。

1. この本の著者には「かんしん」がある。
2. 彼は親孝行で「かんしん」だ。
3. 鉄鋼の輸出量に「かんしん」を持つ。

2 次の「し」のなかで違う漢字で書くのはどれか。

1. 体の調「し」
2. 授業の開「し」
3. 白い帽「し」

3 原案のまま

4 保「けん」室の「けん」と同じ漢字を使うものはどれか。

1. 試「けん」に合格したのは朗報だ。
2. 「くん」康に注意して父は働いている。
3. 危「けん」物を処分する。

5 ふたつの漢字の画数を足した時、正解はどちらか。

1. 「2」+「6」=8
2. 「4」+「5」=9

3 次の「や」について、「家」の意味ではないものはどれか。

1. 「や」ぬし
2. 「や」ちん
3. へい「や」
4. あき「や」

7 「画数」の「かく」と同じ意味の漢字はどれか。

1. 「かく」張工事
2. 総「かく」索引
3. 視聴「かく」しつ

8 次の「し」の漢字の中で、「す」という読み方を持つものはどれか。

1. 曲の歌「し」
2. 雑「し」
3. 花の種「し」
4. 綿「し」

9 「 」を付けた漢字の中で、送りがなの使い方が間違っているものはどれか。

1. 食料が残り「少__ない」。
2. かみの毛が「短__かい」。
3. 道路で遊ぶのは「危__ない」。

10 次の文の中で、「役目を果たす」という意味の「つとめる」はどれか。

1. 株式会社に「つとめる」。
2. 学級委員を「つとめる」。
3. 事故防止に「つとめる」。

11 「 」を付けた漢字の中で送りがなの間違っているものはどれか。

1. 言葉を「補__う」。
2. チラシを「配__ばる」。
3. 仏像を「拝__む」。
4. 郷里を「訪__ねる」

12 ゴール おめでとう。

資料64 特別な読み方をする言葉 6下 p.93

「あす」(めい□みょう□あ__かり□あか__るい□あか__るむ□あか__らむ□あき__らか□あ__ける□あ__く□あ__くる□あ__かす, □にち□じつ□ひ□か)

お「かあ」さん(ぼ□はは)

お「とう」さん(ふ□ちち)

「おとな」(だい□たい□おお□おお__きい□おお__いに, □じん□にん□ひと)

「かわら」(か□かわ, □げん□はら)

「きのう」(さく, □にち□じつ□ひ□か)

「きょう」(こん□いま, □にち□じつ□ひ□か)

「くだもの」(か□は__たす□は__てる□は__て, □じつ□み□みの__る)

「けさ」(こん□いま, □ちょう□あさ)

「けしき」(けい, □しょく□しき□いろ)

「ことし」(こん□きん□いま, □ねん□とし)

「しみず」(せい□しょう□きよ__い□きよ__まる□きよ__める, □すい□みず)

「じょうず」(しょう□うえ□うわ□かみ□あ__げる□あ__がる□のぼ__る□のぼ__せる□のぼ__す, □しゅ□て□た)

「たなばた」 (しち□なな□なな__つ, □ゆう)

「ついたち」 (いち□いつ□ひと□ひと__つ, □にち□じつ□ひ□か)

「てつだ」 う (しゅ□て, □でん□つた__わる□つた__える□つた__う)

「とけい」 (じ□とき, □けい□はか__る□はか__らう)

「ともだち」 (ゆう□とも, □たつ)

「にい」 さん (けい□きょう□あに)

「ねえ」 さん (し□あね)

「はかせ」 (はく, □し)

「はつか」 (に□ふた□ふた__つ, □じゅう□じつ□とお□と, □にち□じつ□ひ□か)

「ひとり」 (いち□いつ□ひと□ひと__つ, □じん□にん□ひと) 「ふたり」 (に□ふた□ふた__つ, □じん□にん□ひと)

「ふつか」 (に□ふた□ふた__つ, □にち□じつ□ひ□か)

「へた」 (か□げ□した□しも□もと□さ__げる□さ__がる□くだ__る□くだ__す□くださる□おろす□おりる, □しゅ□て)

「まいご」 (めい□まよ__う, □し□す□こ)

「まっ」 か (しん□ま, □せき□しゃく□あか□あか__い□あか__らむ□あか__らめる)

「まっ」 さお (しん□ま, □せい□しょう□あお□あお__い)

「めがね」 (がん□げん□まなこ, □きょう□かがみ)

「やおや」 (はち□や□や__つ□や__つ□よう, □ひやく, □おく□や)

点字の表記に関する指導事項

学 年	ページ	指 導 事 項	備 考
1 年上		清音・濁音・半濁音	入門期教材
	表紙裏	長音 (⠠)	はる
	18	読点 (てん) ⠠□	たんけんしたよ、みつけたよ
	18	句点 (まる) ⠠□□	〃
	18	第1カッコ ⠠～⠠	〃
	23	棒線 □⠠⠠□	かきとかぎ
	24	促音 ⠠	ともだち
	27	促音教材	ねことねっこ
	28	第1カギ ⠠～⠠	はなのみち
	36	空欄符号 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠	ことばをいれてぶんをつくろう
	40	拗音	あいうえおであそぼう
	40	第1つなぎ符 (5 0 ⠠⠠⠠)	〃
	42	長音教材	おばさんとおばあさん
	52	「お」と「を」の表記	「わ」「を」「え」をつかって かこう
	54	ますあけ教材追加 (資料2参照)	〃
	57	拗音教材	おもちゃおもちゃ
	70	「せんせい」と「おねえさん」の表記	ほんとなかよし
	72	二マスあけ (文の最初)	てがみをかこう
	72	一マスあけ (読点のあと)	〃
	72	二マスあけ (句点のあと)	〃
	74	中点 ⠠	はっきりはなそう
	77	「おおきな」と「おとーさん」の表記	みんなでよもう
	86	二重カギ ⠠⠠～⠠⠠	〃
	88	数字	かずとかんじ
	88	ひとつ, ふたつ, みっつ・・・	〃
	90	点線 □⠠⠠⠠□	〃
	99	右向き矢印 □⠠⠠⠠□	ことばであそぼう
巻末	点字ドリル追加 (資料1参照)		
1 年下	23	作文の書き方	よく見てかこう
	24	のばすおんのかき方	かたかな
	24	両向き矢印 □⠠⠠⠠⠠⠠□	〃
	26	第二つなぎ符 (送りがなの書き方) 例 大きい ⠠⠠⠠⠠⠠⠠	本ともだちになろう
	38	日づけの書き方	日づけとよう日
	94	第1星印 ⠠⠠□	どうぶつ村のおんがかい
	巻末	点字練習追加 (資料1参照)	

学 年	ページ	指 導 事 項	備 考
2 年 上	11	棒線 □ ⠠⠠⠠ (本文に初出)	ふきのとう
	19	重ね数字の書き方 二、三日 (⠠⠠⠠⠠⠠⠠)	たんぼぼのちえ
	58	丸 (⠠⠠), 点 (⠠⠠), かぎ (⠠⠠ ⠠⠠) の使い方	丸, 点, かぎ
	60	詩の書き方	おおきくなあれ
	巻末	点字練習追加 (資料 1 参照)	
2 年 下	36	外来語・擬声語の長音	かたかなで書くことば
	37	特殊音フォ ⠠⠠⠠ (フォーク)	〃
	60	特殊音ティ ⠠⠠⠠ (パーティー)	楽しかったよ、二年生
	巻末	点字練習追加 (資料 1 参照)	
3 年 上	5	波線 (47 ページ ⠠⠠⠠ 59 ページ)	つづけてみよう
	22	第 1 小見出し符 ~ ⠠⠠⠠	きつつきの商売
	23	ハガキの宛名の書き方 (資料 1 7 参照)	〃
	65	特殊音ツェ ⠠⠠⠠ (ホツツェンプロツツ)	本はともだち
	巻末	点字練習追加 (資料 1 参照)	
3 年 下	18	ページと行の略記 (4 ページ 7 行目)	ちいちゃんのかげおくり
	31	伏字の〇 (⠠⠠⠠⠠⠠⠠社)	本で調べる
	43	特殊音ファ ⠠⠠⠠ (ファイターズ)	名前をつけよう
	94	特殊音ヴィ ⠠⠠⠠ (ズドラーストヴィーチェ)	世界の「こんにちは」と文字
	94	特殊音チェ ⠠⠠⠠ (ズドラーストヴィーチェ)	〃
	巻末	点字練習追加 (資料 1 参照)	
4 年 上	18	手紙の書き方・封筒の書き方	手紙を書く
	30	第 1 段落挿入符 □ □ ⠠⠠⠠ □ ~ □ ⠠⠠⠠	春のうた
	49	ローマ字の書き方	ローマ字
	46-47	ローマ字の拗音, 長音, 促音 長音の例 okasan ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠	〃
	46	外国語引用符 ⠠~⠠	〃
	46	切れるところをしめす印 例 tan'i (たんい) ⠠⠠⠠⠠⠠⠠	〃
	45	言葉をつなぐ印 例 Inoue-Kazuko ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠	〃
	45	二重大文字符 ⠠⠠	〃
	80	第一指示符 ⠠⠠~⠠⠠	「伝えあう」ということ
	巻末	点字練習追加 (資料 1 参照)	
4 年 下	51	特殊音フィ ⠠⠠⠠ (フィンランド)	言葉遊びの世界
	55	特殊音ウォ ⠠⠠⠠ (ストップウォッチ)	漢字の広場
	巻末	点字練習追加 (資料 1 参照)	

学 年	ページ	指 導 事 項	備 考
5 年 上	22-24	手紙の書き方	お願いの手紙、お礼の手紙
	44-45	点字の仮名づかい（資料 3 4 参照）	点字の仮名づかいの決まり
	60	特殊音ウィ ヨヰ (ウィルバー)	本は友達
	66	一ます空欄 ヨヰヰ	カンジー博士の暗号解読
	66	第二カギ ヨヰヰ～ヨヰヰ	〃
5 年 下	31	特殊音ディ ヨヰヰ (ディレクター)	ニュース番組作りの現場から
	114	特殊音ジェ ヨヰヰ (ジェイン)	月夜のみみずく
6 年 上	33	古文の点字表記 「しらとりは」「あを」などの読み方	短歌・俳句の世界
	33	短歌の書き方	〃
	34	俳句の書き方	〃
	71	ゐの表記 ヨヰ	詩を味わおう
	87	ゐ, 𠬪, 𠬫, エの表記 ヨヰ ヨヰ	日本で使う文字
	114	手紙の形式（資料 5 9 参照）	手紙の形式
	119	台本、ト書きの書き方	柿山伏
	6 年 下	24	特殊音ヴ ヨヰヰ (イーハトーヴ)
41		感嘆符 ヨヰ	
56		特殊音ツァ ヨヰヰ (ツァイチエン)	わたしたちの言葉
93		特殊音のまとめ シエ ヨヰヰ チェ ヨヰヰ ツァ ヨヰヰ, ツェ ヨヰヰ, ツォ ヨヰヰ テイ ヨヰヰ ファ ヨヰヰ, フィ ヨヰヰ, フェ ヨヰヰ, フォ ヨヰヰ ジェ ヨヰヰ ディ ヨヰヰ デュ ヨヰヰ	特別な読み方の片仮名